



平成 2 2 年度 東京湾水質一斉調査 調査結果

平成 2 3 年 3 月

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査参加機関	2
3. 調査地点	4
4. 調査日前後の気象・海象状況	5
5. 水温の状況	8
6. 塩分濃度の状況	1 1
7. 溶存酸素量（DO）の状況	1 3
8. 化学的酸素要求量（COD）の状況	1 6
9. 東京湾に流入する主な河川の状況	1 7
1 0. 環境教育等の開催実績	2 1
1 1. 調査結果速報図	2 2
1 2. 調査実施状況写真	2 3
1 3. 問い合わせ先等	3 3

はじめに

東京湾水質一斉調査は、「多様な主体が協働しモニタリングを実施することにより国民・流域住民の東京湾再生への関心を醸成する」ほか、「東京湾の全域及び陸域を対象とした一斉での調査を通じ、東京湾の汚濁メカニズムを解明する」ことを目的として平成20年に開始し、今年で3回目となります。

今年も東京湾及び流域の環境に関心を持たれる多くの方々に参加いただき、貴重な観測データが得られました。また、参加された方々におかれては、調査への参加を通じて東京湾及び流域の環境に触れ、環境について様々な思いを持っていただけたものと思います。

本資料は、東京湾水質一斉調査の成果を、一斉調査日の東京湾及び流域の水質の状況を中心にまとめたものです。本資料が、調査に参加された方々のお役に立てば、また、より多くの方に関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

1. 調査概要

(1) 主催

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議

(2) 後援

社団法人 日本経済団体連合会

(3) 調査内容

①海域環境調査

溶存酸素量(DO)、水温、塩分、その他

②河川環境調査

化学的酸素要求量(COD)、水温、流量、その他

③環境教育等

(4) 調査日

①海域環境調査及び河川環境調査

平成22年8月4日を一斉調査日とし、平成22年7月24日から
平成22年8月23日の間に実施

②環境教育等

平成22年7月から8月にかけて実施

(5) 調査参加機関

131機関

(6) 環境調査実施地点数

750地点

(7) 環境教育等の開催数

21

2. 調査参加機関

下記のとおり、131機関が調査に参加しました。

国：5機関

- ・海上保安庁
- ・環境省
- ・水産庁
- ・国土交通省関東地方整備局
- ・海上保安庁第三管区海上保安本部

自治体：32自治体

- ・埼玉県
- ・千葉県
- ・東京都
- ・神奈川県
- ・横浜市
- ・川崎市
- ・千葉市
- ・さいたま市
- ・相模原市
- ・春日部市
- ・川口市
- ・川越市
- ・熊谷市
- ・越谷市
- ・狭山市
- ・草加市
- ・所沢市
- ・市川市
- ・市原市
- ・袖ヶ浦市
- ・習志野市
- ・船橋市
- ・松戸市
- ・江戸川区
- ・大田区
- ・江東区
- ・品川区
- ・中央区
- ・港区
- ・八王子市
- ・町田市
- ・横須賀市

大学・研究機関：14機関

- ・東京大学大学院
- ・東京工業大学大学院
- ・東邦大学
- ・横浜国立大学大学院
- ・独立行政法人港湾空港技術研究所
- ・神奈川県水産技術センター
- ・独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所
- ・財団法人東京都環境整備公社東京都環境科学研究所
- ・東京海洋大学
- ・東京理科大学
- ・公立大学法人横浜市立大学
- ・国土交通省国土技術政策総合研究所
- ・独立行政法人国立環境研究所
- ・千葉県水産総合研究センター

市民団体：6団体

- ・特定非営利活動法人Earth Blue
- ・特定非営利活動法人木更津イルカ計画
- ・さいたま市水環境ネットワーク
- ・認定特定非営利活動法人ふるさと東京を考える実行委員会
- ・特定非営利活動法人未来に残そう青い海
- ・特定非営利活動法人横浜シーフレンズ

民間企業等：74機関・部門

- ・曙ブレーキ岩槻製造株式会社
- ・旭化成ケミカルズ株式会社川崎製造所
- ・アルバック成膜株式会社
- ・株式会社沿岸生態系リサーチセンター
- ・キッコーマン食品株式会社野田工場製造第1部
- ・キッコーマン食品株式会社野田工場製造第3部
- ・麒麟麦酒株式会社横浜工場
- ・株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
- ・財団法人埼玉県下水道公社
- ・三栄レギュレーター株式会社東京工場
- ・サントリー酒類株式会社武蔵野ビール工場
- ・旭硝子株式会社京浜工場
- ・味の素株式会社川崎事業所
- ・川口薬品株式会社浦和工場
- ・川崎化成工業株式会社川崎工場
- ・埼玉県環境計量協議会
- ・株式会社SUMCO野田事務所
- ・JFE鋼板株式会社千葉製造所
- ・株式会社地盤試験所

- ・ J X 日鉱日石エネルギー株式会社川崎製造所
- ・ J X 日鉱日石エネルギー株式会社根岸製油所
- ・ J F E エンジニアリング株式会社鶴見製作所
- ・ J F E スチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）
- ・ J F E スチール株式会社東日本製鉄所（千葉地区）
- ・ 株式会社 J - オイルミルズ千葉工場
- ・ 株式会社 J - オイルミルズ横浜工場
- ・ 新日本製鐵株式会社君津製鐵所
- ・ 新東日本製糖株式会社千葉工場
- ・ 住友化学株式会社千葉工場（袖ヶ浦地区）
- ・ 太陽油脂株式会社
- ・ 電源開発株式会社磯子火力発電所
- ・ 東亜石油株式会社京浜製油所扇町工場
- ・ 東亜石油株式会社京浜製油所水江工場
- ・ 株式会社東芝浜川崎工場
- ・ 東芝マテリアル株式会社
- ・ 流山キッコーマン株式会社
- ・ 日産自動車株式会社追浜工場
- ・ 日産自動車株式会社横浜工場
- ・ 日清オイリオグループ株式会社横浜磯子事業場
- ・ 日本冶金工業株式会社川崎製造所
- ・ 株式会社日本触媒川崎製造所浮島工場
- ・ 株式会社日本触媒川崎製造所千鳥工場
- ・ 日本ポリエチレン株式会社川崎工場
- ・ 日本ミルクコミュニティ株式会社野田工場
- ・ 日本ミルクコミュニティ株式会社日野工場
- ・ 三菱レイヨン株式会社横浜事業所
- ・ 森永乳業株式会社東京多摩工場
- ・ 横浜市漁業協同組合
- ・ 財団法人横浜市臨海環境保全事業団
（平成22年10月1日から「財団法人横浜市緑の協会」）
- ・ 株式会社横浜八景島（横浜・八景島シーパラダイス）
- ・ 横浜ベイサイドマリーナ株式会社
- ・ 習和産業株式会社
- ・ 昭和電工株式会社横浜事業所
- ・ 新日本製鐵株式会社技術開発本部
- ・ セントラル硝子株式会社川崎工場
- ・ 太平洋製糖株式会社
- ・ 鶴見曹達株式会社
- ・ 東京ガス株式会社袖ヶ浦工場
- ・ 東京ガス株式会社根岸工場
- ・ 東京電力株式会社
- ・ 株式会社東芝横浜事業所
- ・ 東燃ゼネラル石油株式会社
- ・ 日油株式会社川崎事業所
- ・ 日産自動車株式会社本牧専用埠頭
- ・ 日本オキシラン株式会社
- ・ 日本ゼオン株式会社川崎工場
- ・ 日本乳化剤株式会社
- ・ 日本ユニカー株式会社川崎工業所
- ・ 株式会社日立製作所中央研究所
- ・ 日野自動車株式会社日野工場
- ・ 保土谷化学工業株式会社横浜工場
- ・ 森永乳業株式会社東京工場
- ・ UDトラック株式会社
- ・ 株式会社ロッテ浦和工場

調査参加機関数は、表1のとおり推移しています。

	第1回	第2回	第3回
一斉調査日	平成20年7月2日	平成21年8月5日	平成22年8月4日
国	3	5	5
自治体	20	39	32
大学・研究機関	12	13	14
市民団体等	5	10	6
民間企業等	7	81	74
合計	47	148	131

表1 調査参加機関数の推移

3. 調査地点

環境調査は、海域 356 地点、河川・湖沼 394 地点、計 750 地点において行われました。

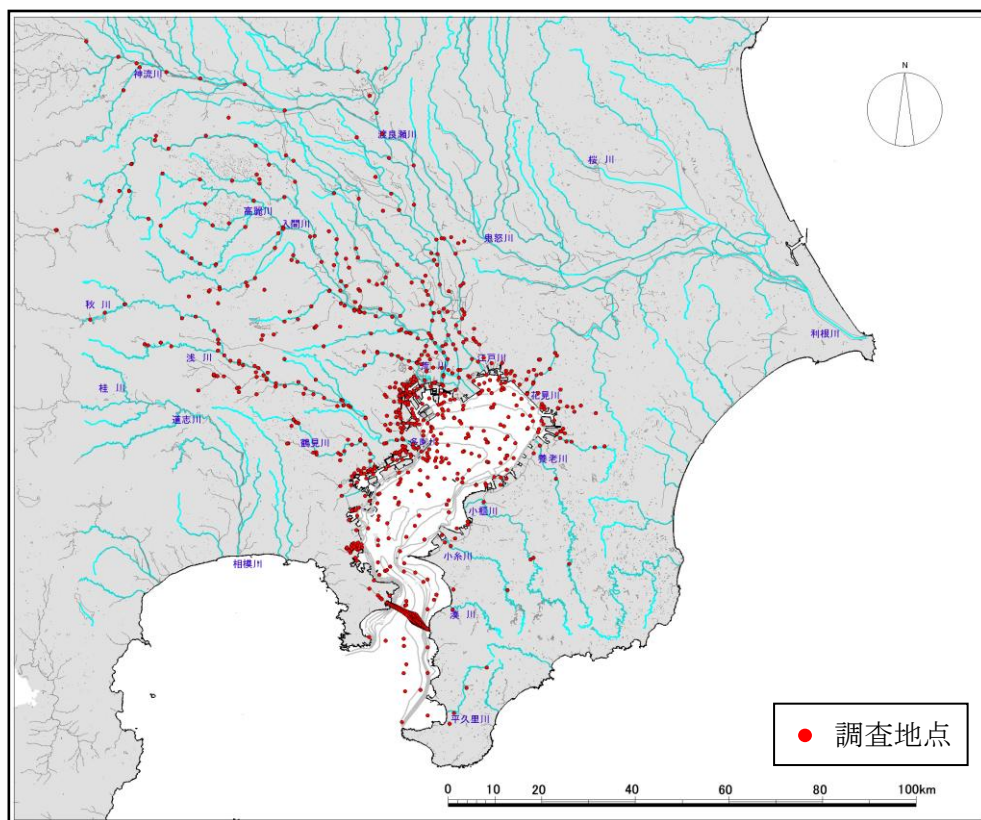


図1 環境調査調査地点図

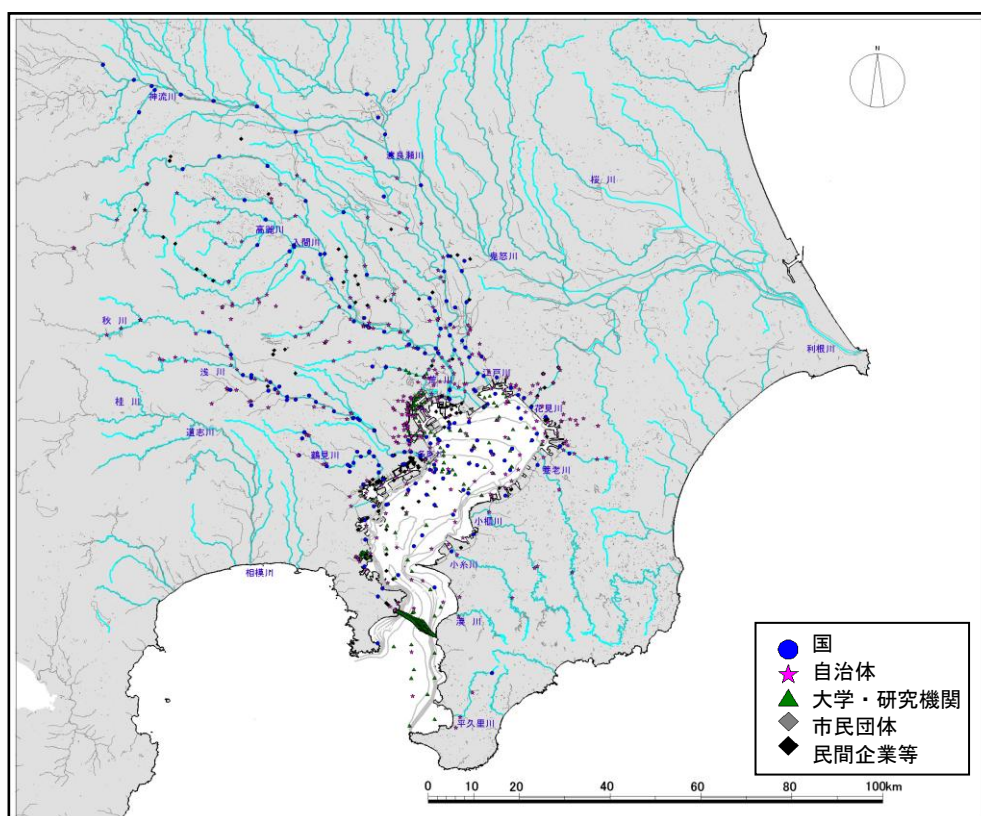


図 2 実施機関別調査地点図

環境調査の調査地点数は、表2のとおり推移しています。

	第1回		第2回		第3回	
一斉調査日	平成20年7月2日		平成21年8月5日		平成22年8月4日	
	海域	河川・湖沼	海域	河川・湖沼	海域	河川・湖沼
国	40	85	38	160	48	86
自治体	100	262	95	216	105	226
大学・研究機関	70	33	96	40	146	10
市民団体等	3	1	3	2	4	0
民間企業	11	0	79	20	53	72
計	224	381	311	438	356	394
合計	605		749		750	

表2 実施機関別調査地点数

4. 調査日前後の気象・海象状況

気象庁アメダスの観測データによると、一斉調査日前後の気象状況は図3から図6のとおりでした。調査日は晴れで、やや風が強い状況でした。

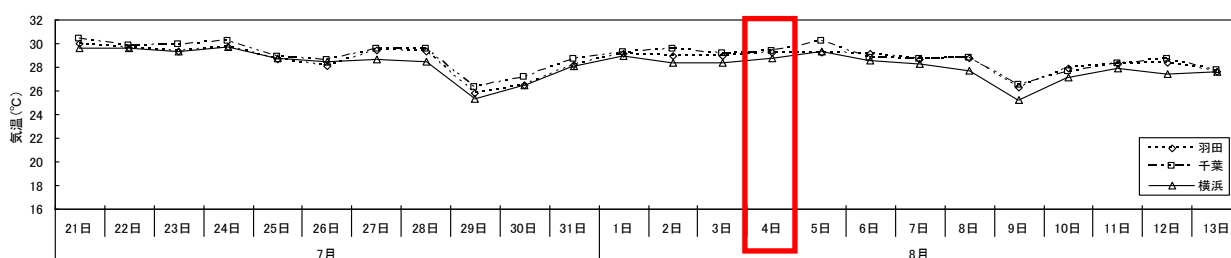


図3 気温の状況

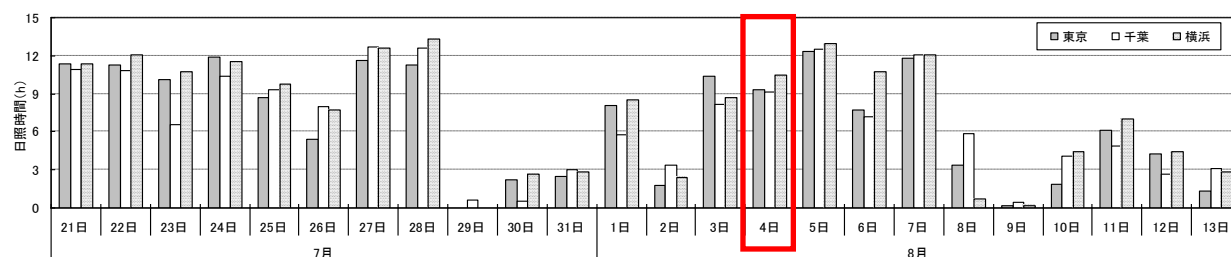


図4 日照時間の状況

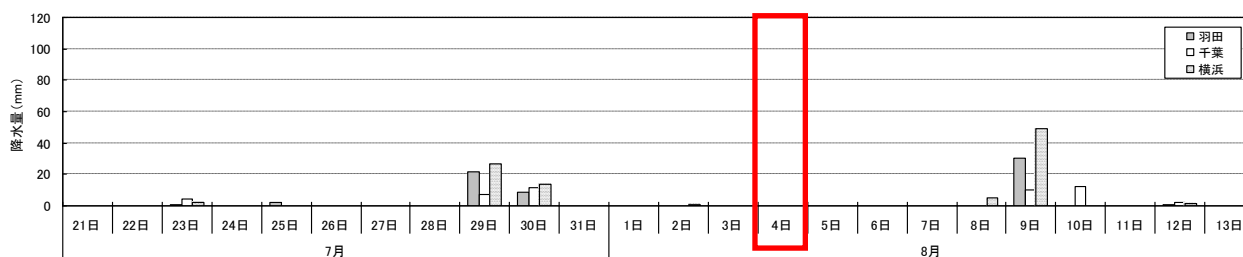


図5 降水量の状況

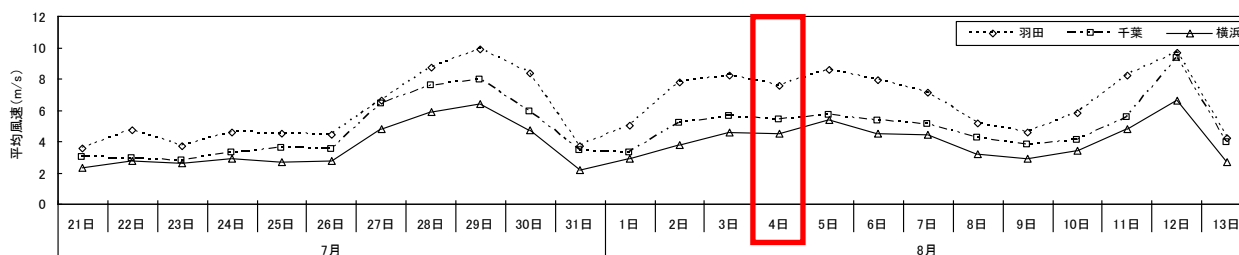


図6 風速の状況

気象庁の「気象統計情報」によると、一斉調査日前後の風の状況は図7のとおりでした。やや強い南向きの風が継続して吹いていました。

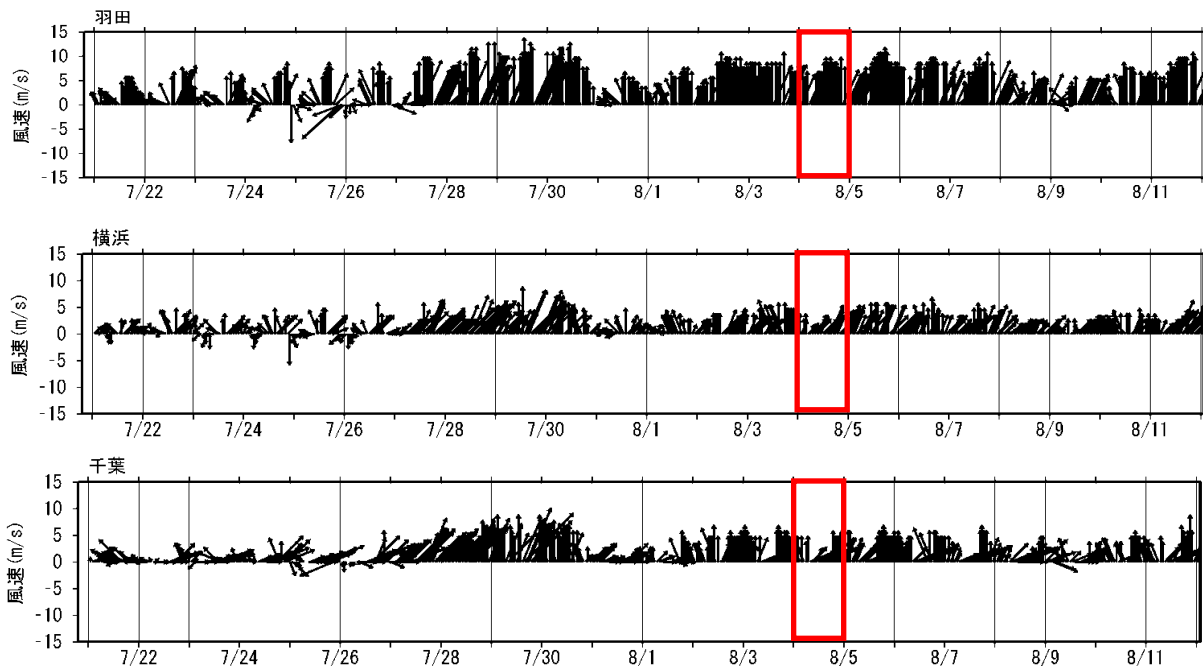
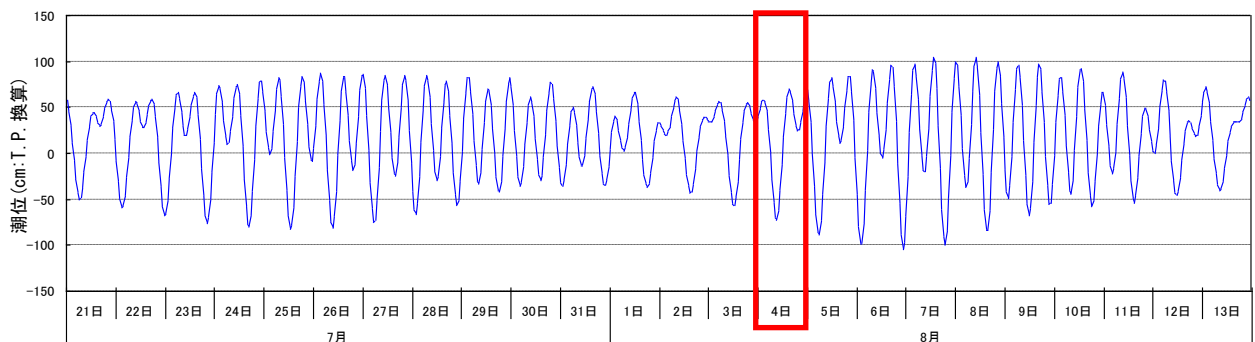


図7 風向及び風速の状況

東京灯標における潮位の状況は図8のとおりでした。



表記は東京湾平均海面(TP)換算

図8 潮位の状況

気象庁の「気象統計情報」により、今年の一斉調査日前後の気象状況を、昨年、一昨年の気象状況と比較すると、図9から図12のとおりです。

気温は、今年が最も高い傾向を示していました。平成20年度は一斉調査日が7月であったことによると考えられますが、今年と同時期であった平成21年度と比較してみても、今年は早くから気温が高かったことが表れています。

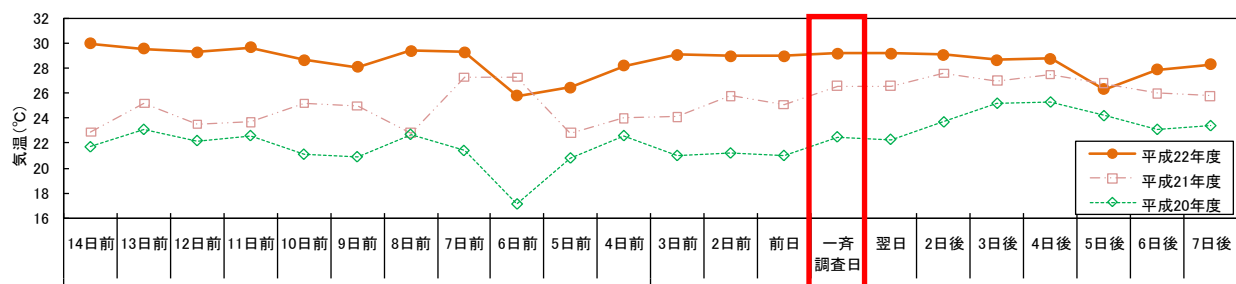


図9 気温の比較（羽田）

日照時間は、今年が最も長い傾向を示していました。一日の日照時間が長い日も多く、快晴の日が多かったことが表れています。

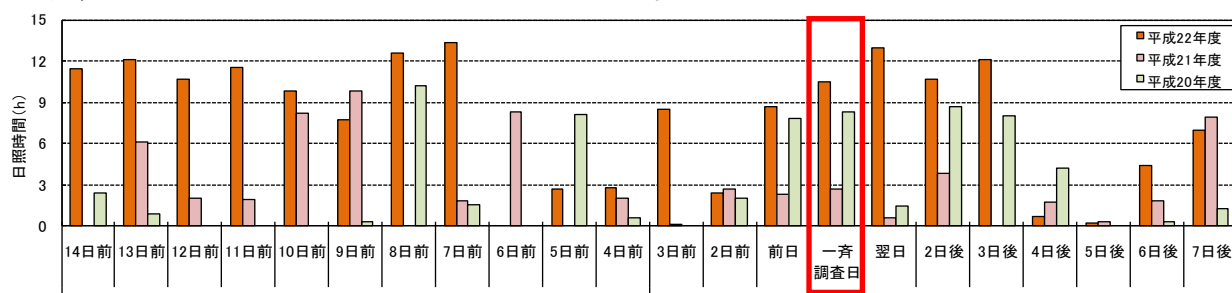


図 1 0 日照時間の比較（東京管区气象台）

降水量は、特段の傾向は認められませんでした。

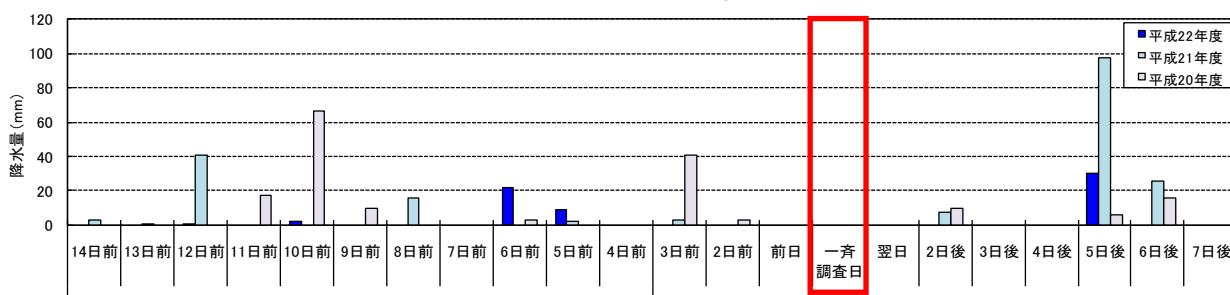


図 1 1 降水量の比較（羽田）

風向は、今年はほとんどが南向きであり、また、風の強い日が続いていたことが表れています。

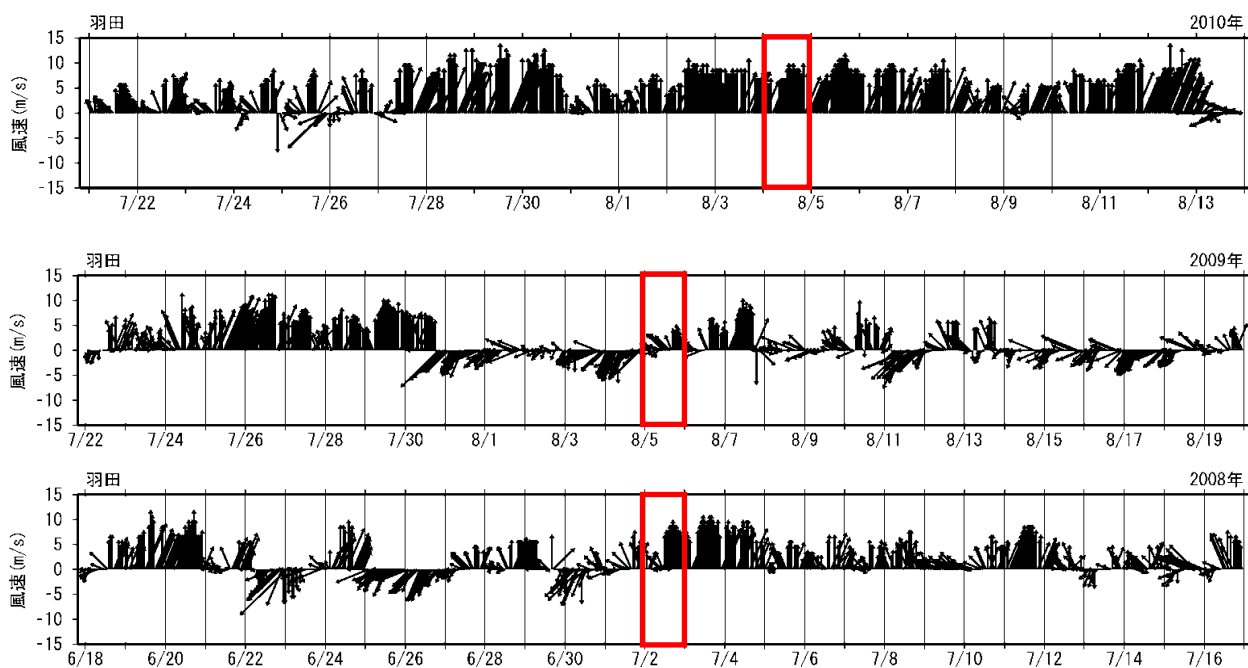


図 1 2 風向及び風速の比較（羽田）

5. 水温の状況

一斉調査日（平成22年8月4日）の水温の状況は、図13から図17のとおりでした。

東京湾のほぼ全域にわたって、海面付近の水温が28℃前後になっていました。断面図では、水温が層状に分布している状況が表れています。

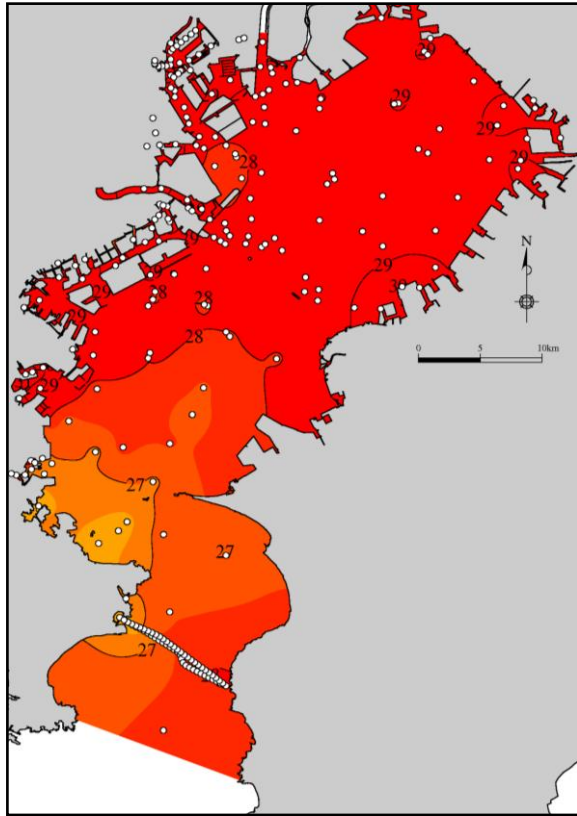


図13 表層水温分布（海域）

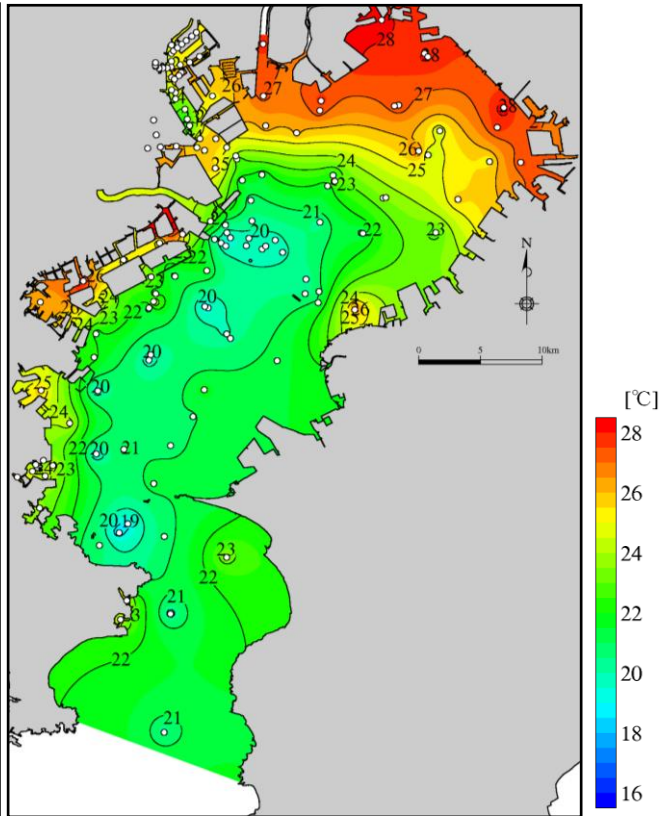


図14 底層水温分布（海域）

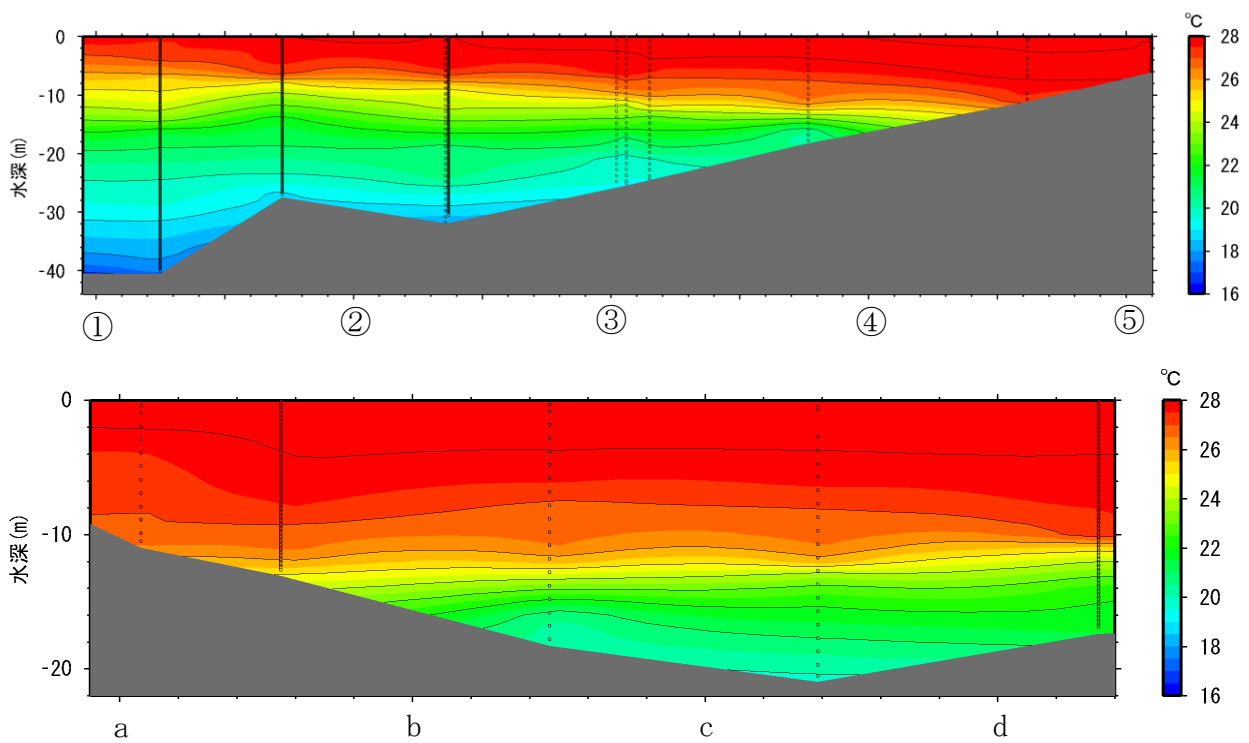


図15 水温断面図（海域）

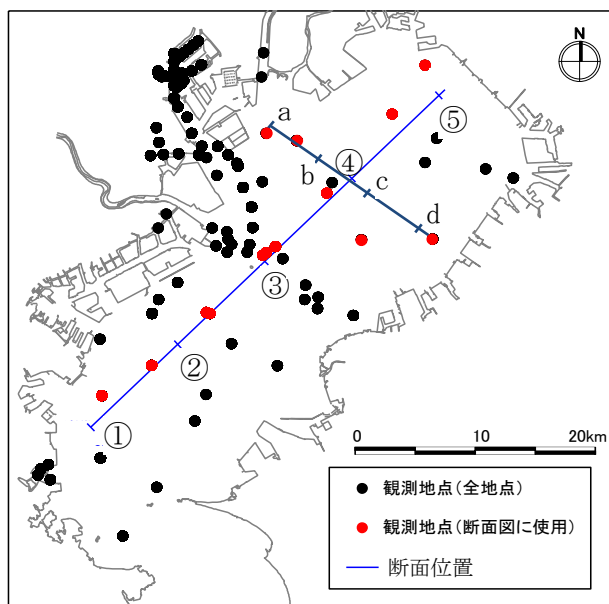


図 1 6 断面位置図

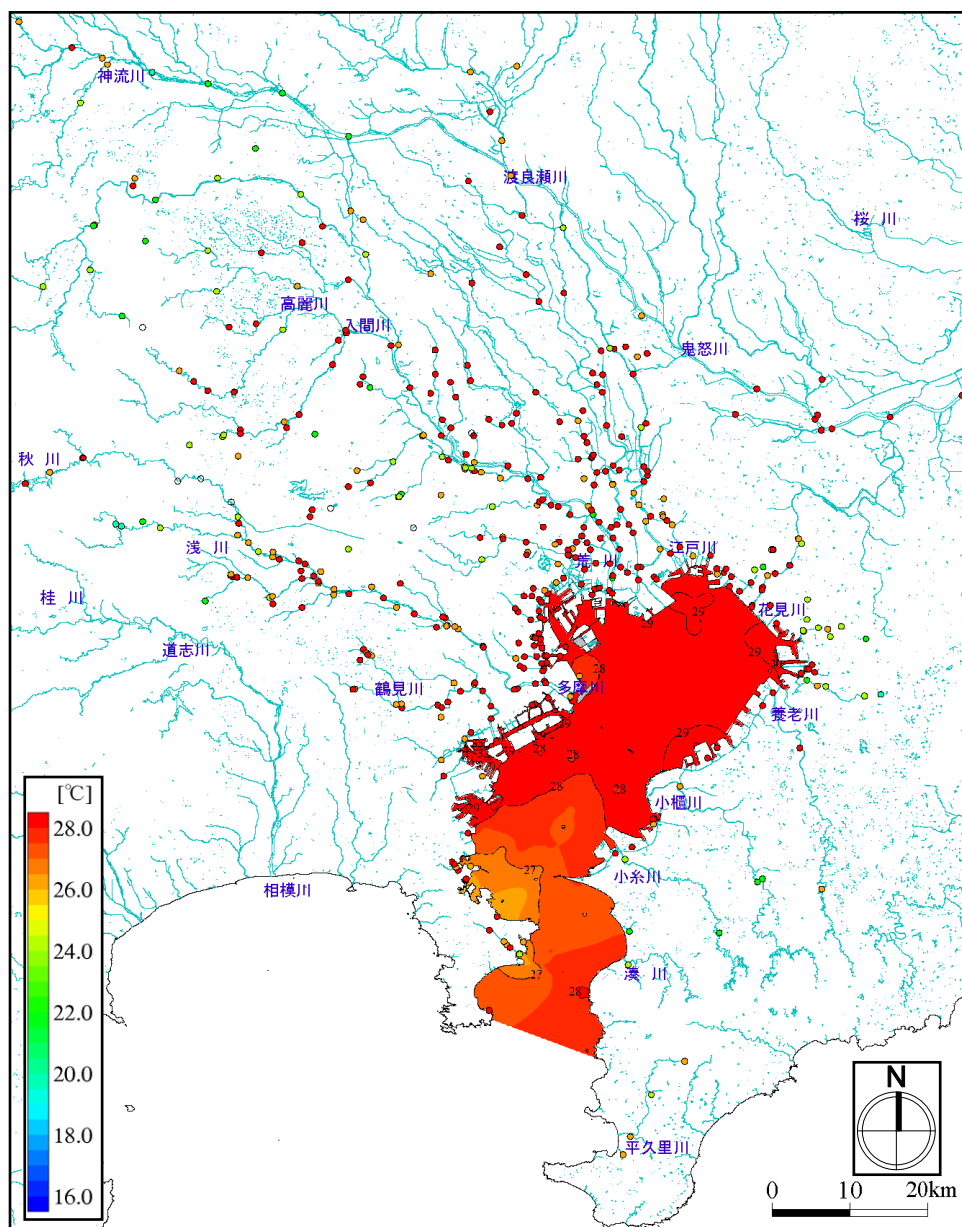


図 1 7 表層水温分布

今年の一斉調査日の水温を、昨年、一昨年の水温と比較すると、図18、図19のとおりです。

表層、底層ともに、今年が最も高い傾向を示していました。平成20年度は一斉調査日が7月であったことによると思われます。今年と同時期であった平成21年度と比較すると、気温が高かったことと同様に、水温も高くなっています。

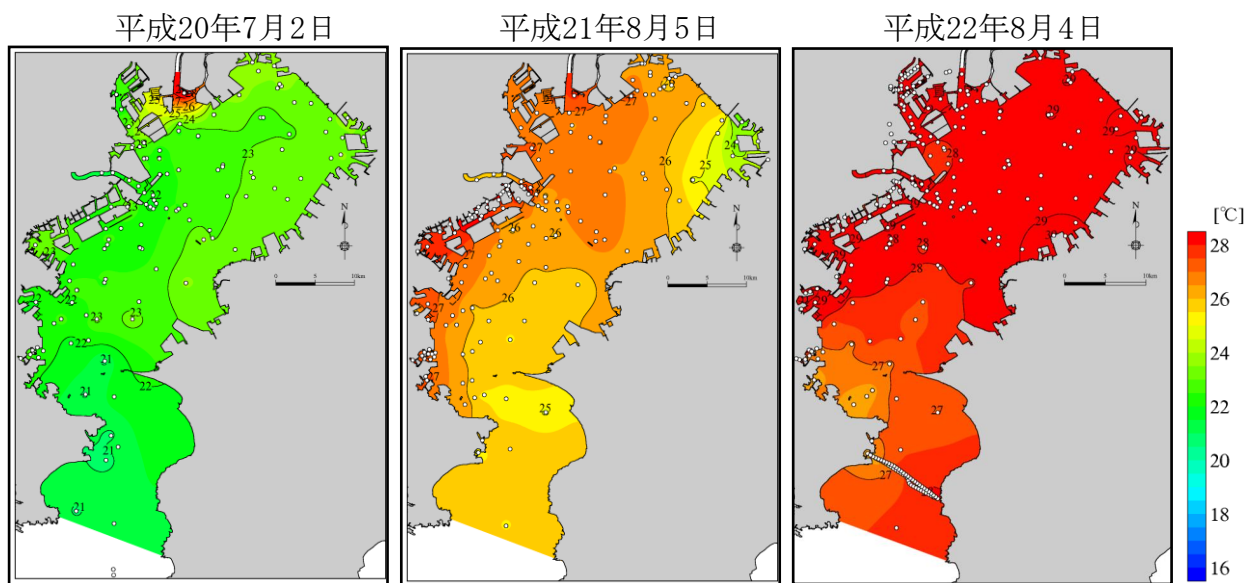


図18 表層水温の比較

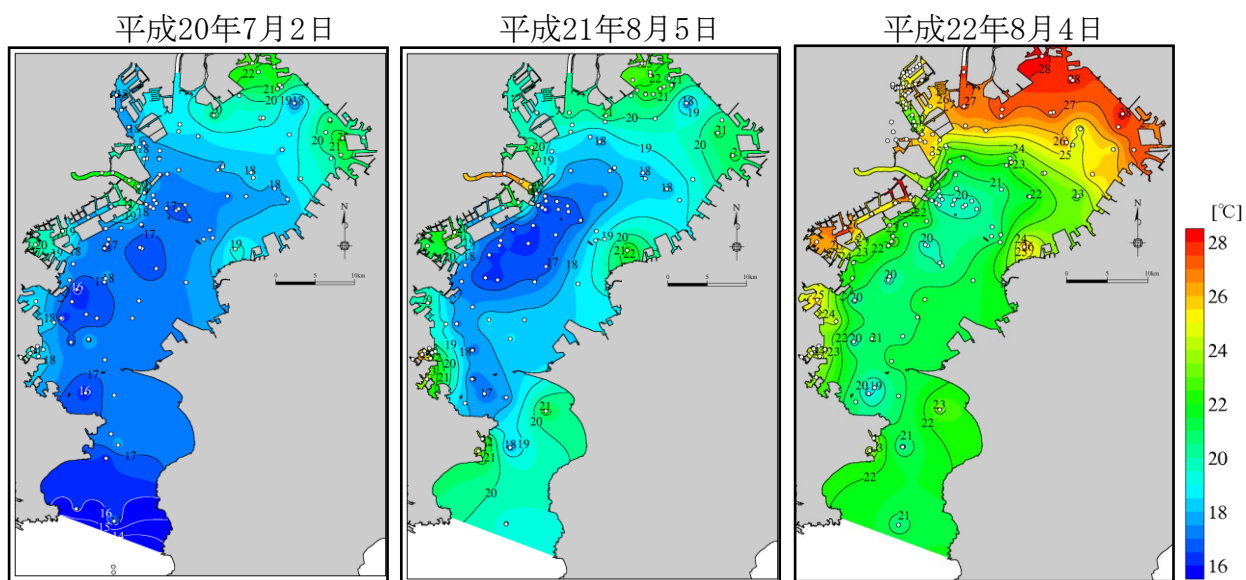


図19 底層水温の比較

6. 塩分濃度の状況

一斉調査日（平成22年8月4日）の塩分濃度の状況は、図20から図22のとおりでした。

東京湾の奥に向かうほど塩分濃度が低くなっています。多摩川、荒川、江戸川などの河川から淡水が流入し、東京湾に広がっている状況が表れています。断面図では、比重の違いにより、塩分濃度分布が層状になっている状況が表れています。

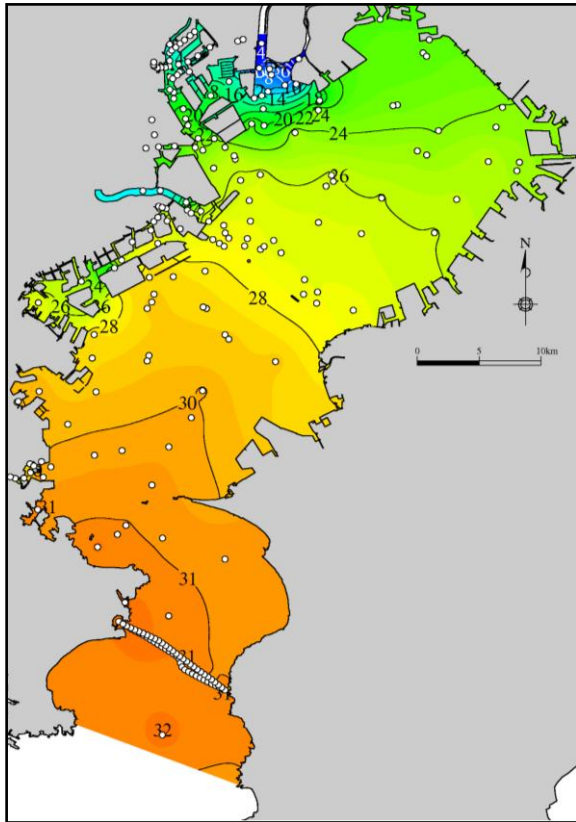


図20 表層塩分濃度分布

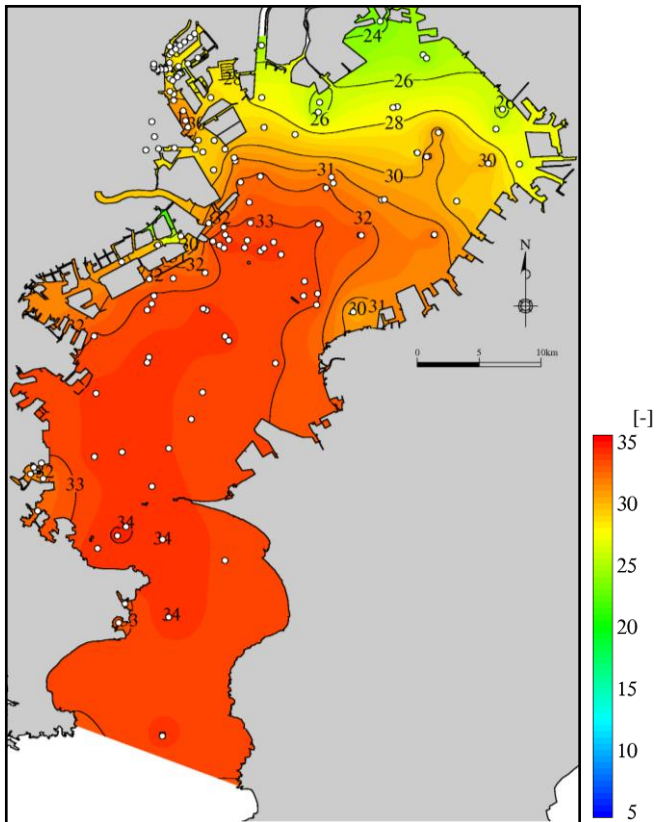


図21 底層塩分濃度分布

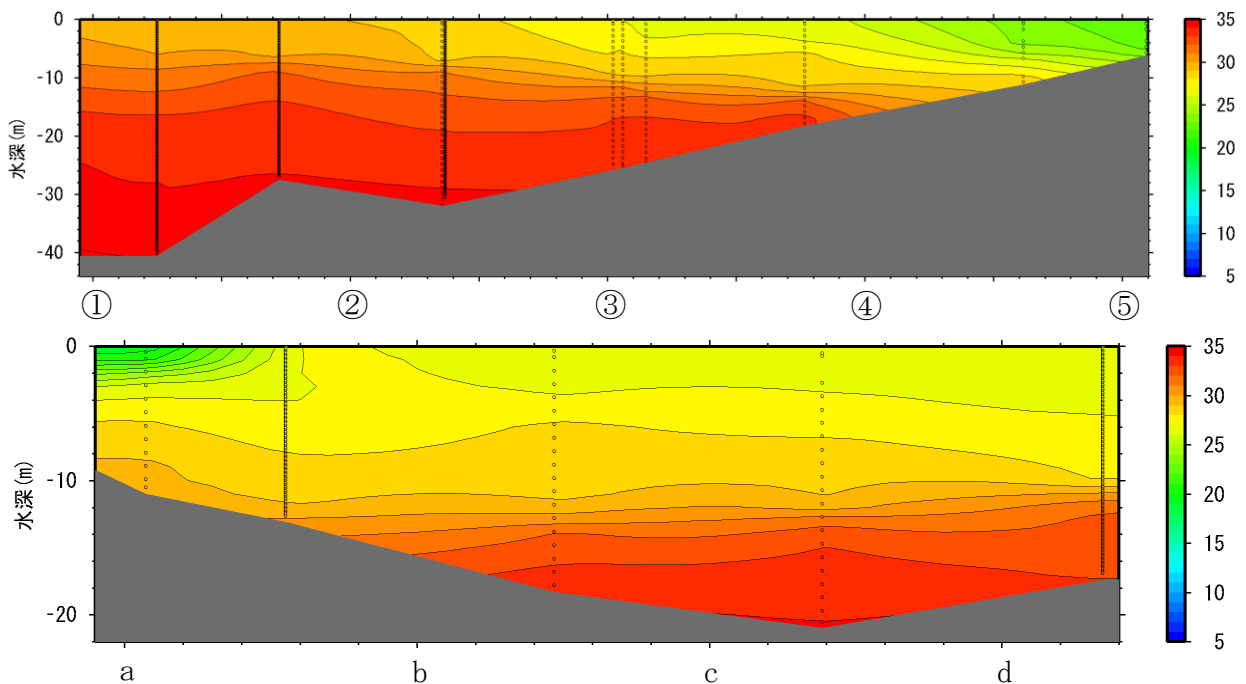


図22 塩分濃度断面図（断面位置は図16と同様）

今年の一斉調査日の塩分濃度を、昨年、一昨年の塩分濃度と比較すると、図 2 3、図 2 4 のとおりです。

河川から流入する淡水が東京湾に広がっている状況が、同様に表れています。ただし、その状況には若干の差があります。平成 2 0 年度、平成 2 1 年度は一斉調査日前の降水量が平成 2 2 年度よりも多く、要因の一つと思われます。

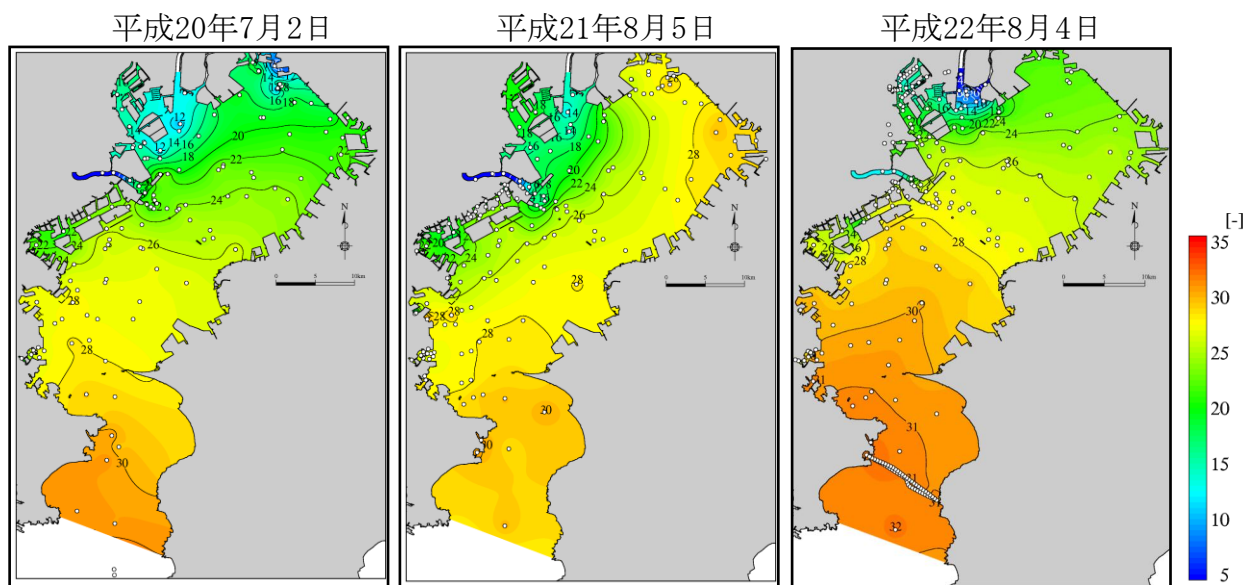


図 2 3 表層塩分濃度の比較

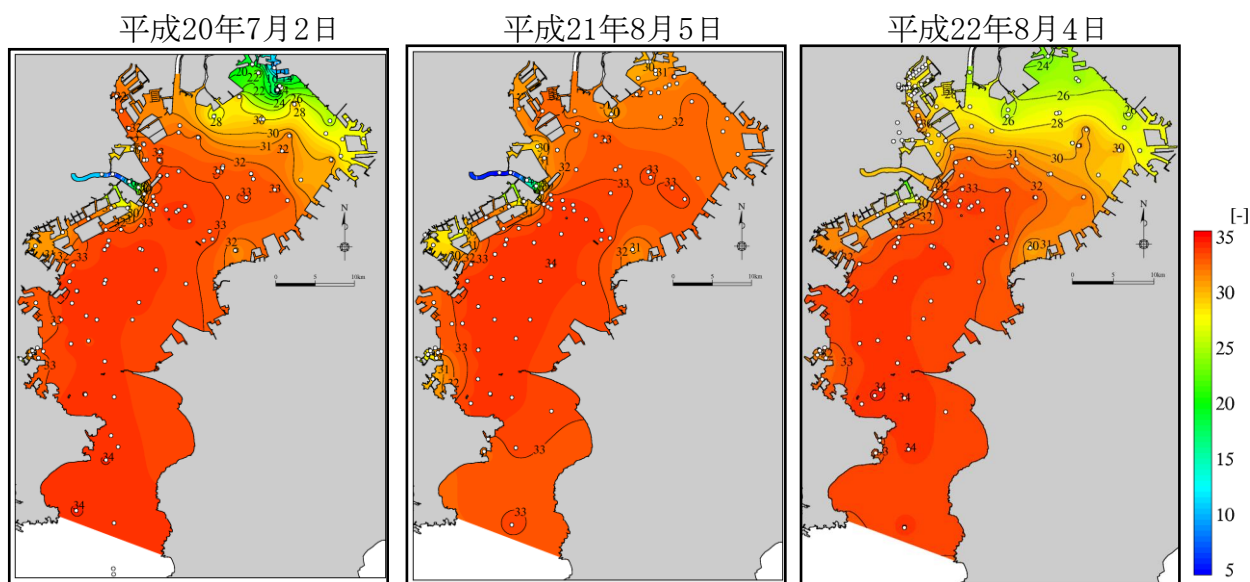


図 2 4 底層塩分濃度の比較

7. 溶存酸素量（DO）の状況

溶存酸素量とは、水中に溶けている酸素の量のことで、代表的な水質汚濁状況を測る指標の一つです。水質汚濁が進み水中の有機物が増えると、微生物が有機物を分解して浄化しようとし、この時酸素が消費され溶存酸素量は低下します。一般的に、3mg/Lより少ないと生物の生息に支障が出ると言われています。水産用水基準では、4.3mg/Lが底生生物の生息状況に変化を起こす境界とされています。

一斉調査日（平成22年8月4日）の溶存酸素量の状況は、図25から図28のとおりでした。

生物の生息に厳しい環境である溶存酸素量の少ない海水（いわゆる貧酸素水塊）が、東京湾中央部の海底に広がっています。断面図では、海底から水深15mくらいまでの間に、貧酸素水塊が存在している状況が表れています。

一斉調査日前は南向きの風が継続して吹いていたため、海面の海水は千葉県側の岸に吹き寄せられていき、岸から海底に潜り込む動きが生じます。断面図の④から⑤の位置の間では、溶存酸素量の多い海水が岸近くに集まっている状況や海底に沿って深い方向へ向かっている状況が見られます。

断面図の②付近では、塩分濃度が高く、温度が低く、重い東京湾外からの海水が、東京湾内に滞っている貧酸素水塊の下に潜り込んでいる状況が見られます。

図中に見られる貧酸素水塊は、海上の風向きや海中の流れの状況により、東京湾内を様々に移動します。北向きから東向きの風が継続して吹くと、海面の海水は千葉県側の岸から沖へと引き離されていき、この動きに連動して海底の海水が岸に湧き上がってきます。貧酸素水塊が湧き上がってくると青潮となり、生息する生物に大きな被害が生じます。

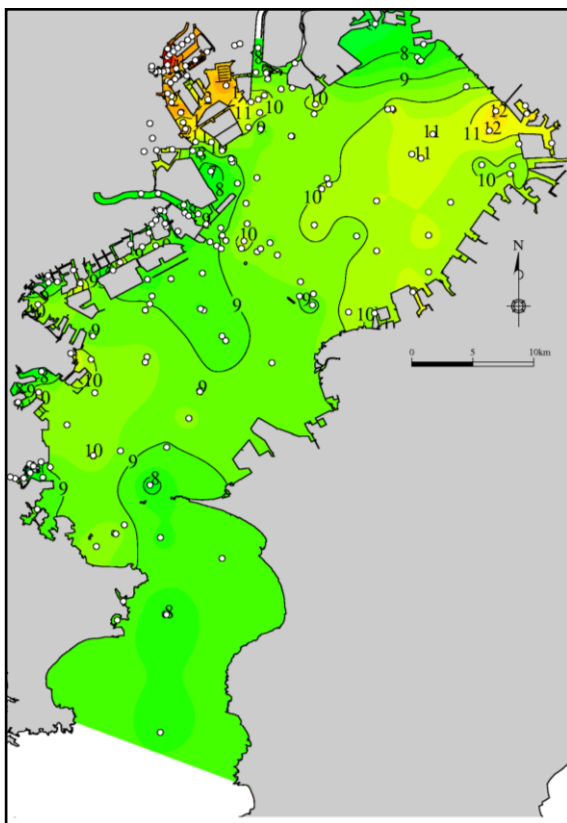


図25 表層溶存酸素量分布

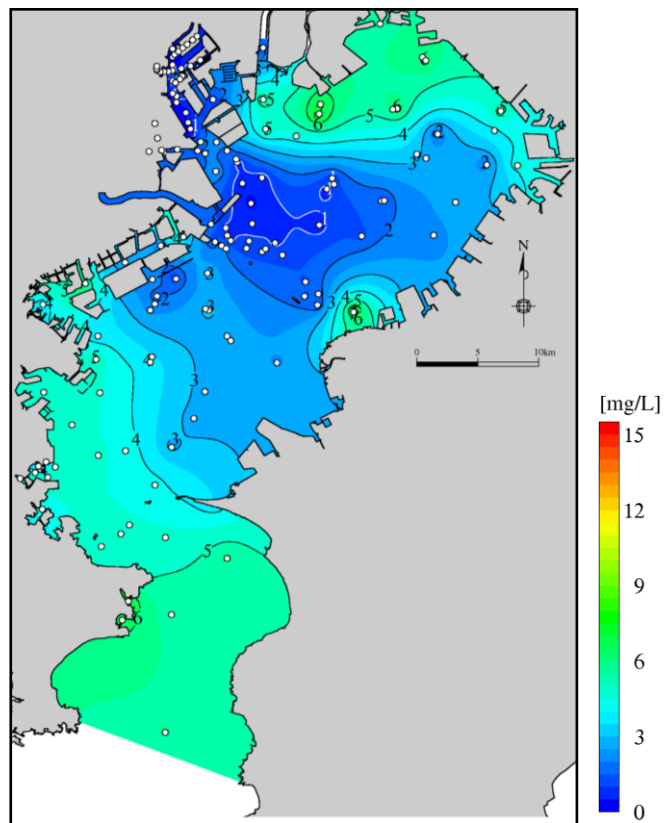


図26 底層溶存酸素量分布

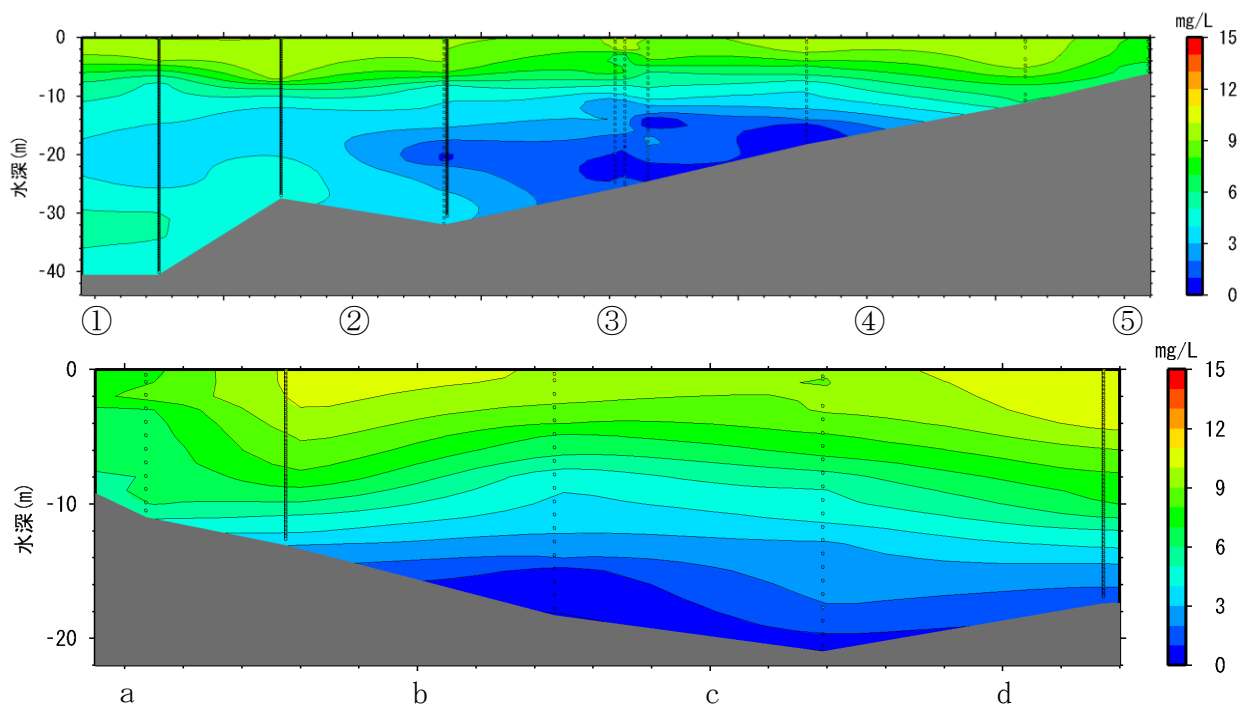


図 2 7 溶存酸素量断面図 (断面位置は図 1 6 と同様)

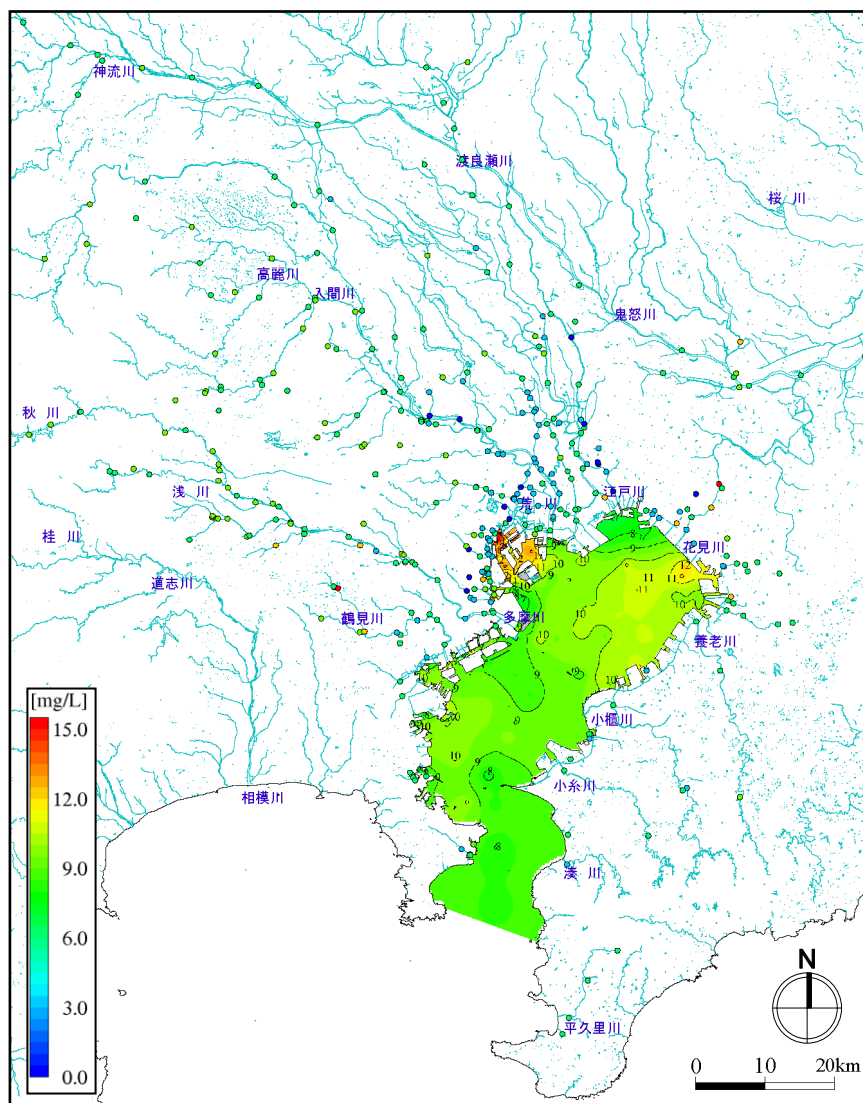


図 2 8 表層溶存酸素量分布 (河川・湖沼含む)

今年の一斉調査日の溶存酸素量を、昨年、一昨年の溶存酸素量と比較すると、図29、図30のとおりです。

貧酸素水塊が毎年海底に見られます。ただし、その位置や範囲は海上の風向きや海中の流れにより変わるため、異なっています。平成22年度は南向きの風が継続して吹いていましたが、平成20年度、平成21年度は、一斉調査日前に北向きや東向きの風も見られました（図12）。貧酸素水塊の位置の違いの要因の一つと思われます。

平成20年度は一斉調査日が7月であり、気温や水温が異なりますが、貧酸素水塊は8月と同様に生じています。これまで行われている観測や調査によると、貧酸素水塊は5月頃発生し、11月頃解消すると見られています。

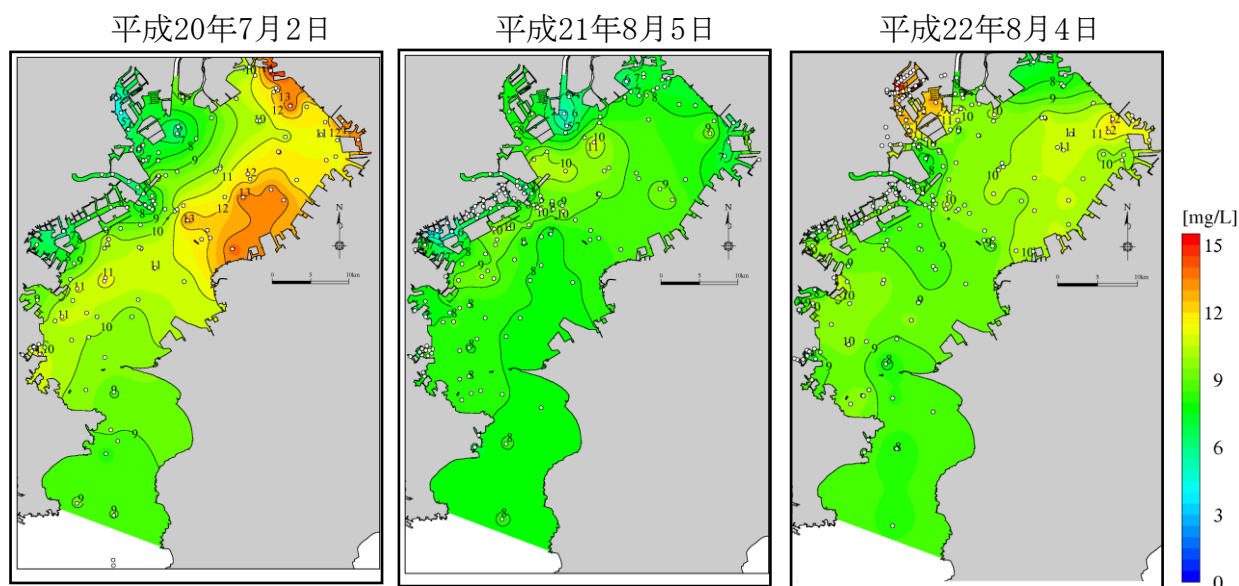


図29 表層溶存酸素量の比較

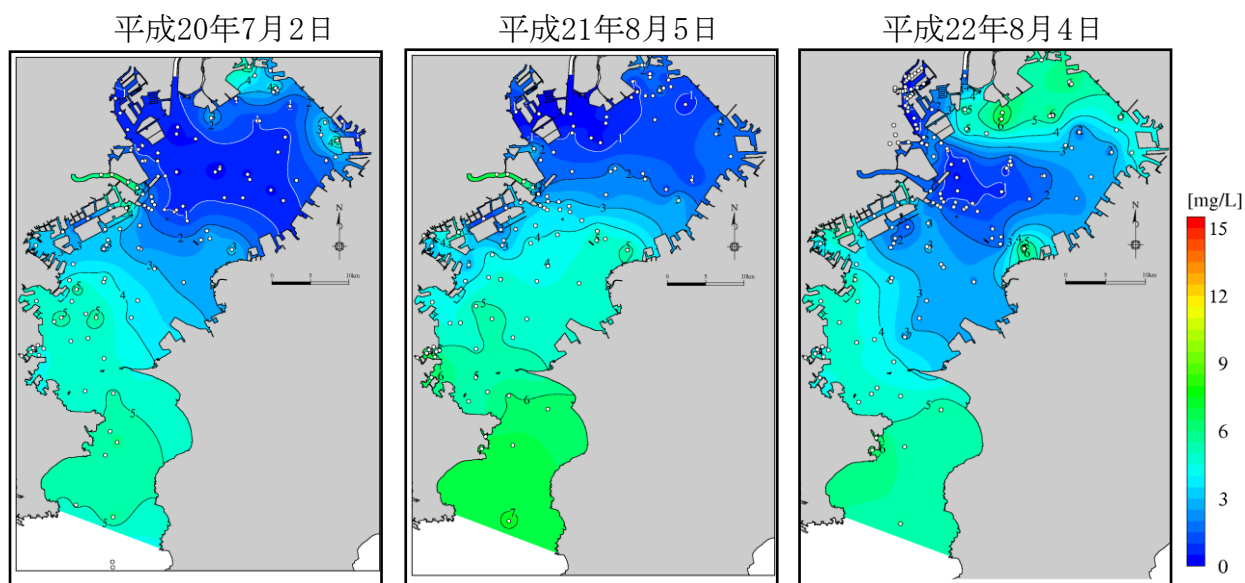


図30 底層溶存酸素量の比較

8. 化学的酸素要求量（COD）の状況

化学的酸素要求量とは、水中の有機物を化学的に分解するために必要な酸素の量のこととで、有機物による汚濁状況を測る代表的な指標です。この値が大きいほど水中の有機物の量が多いことを示しています。

一斉調査日（平成22年8月4日）の化学的酸素要求量の状況は、図31のとおりでした。

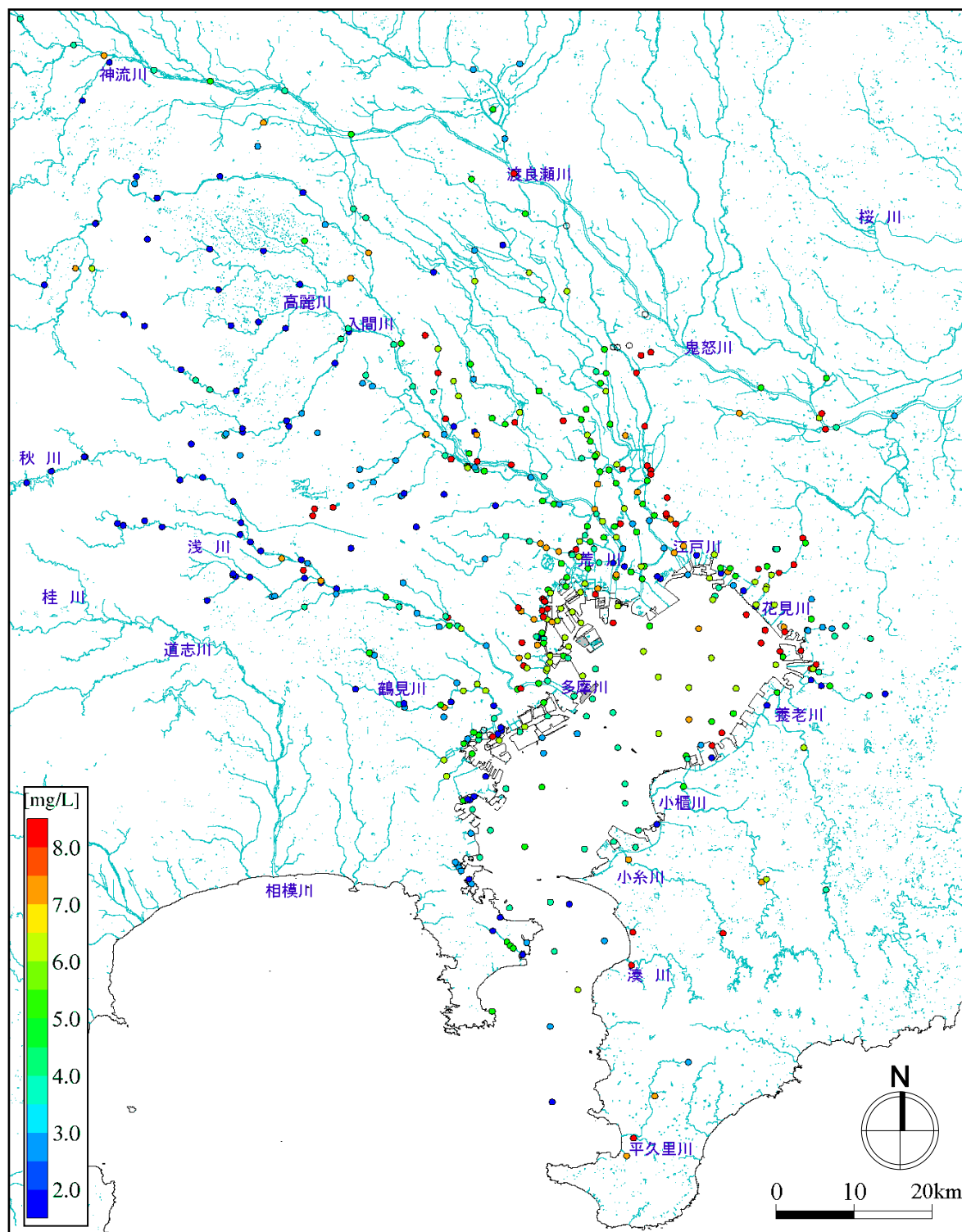


図31 化学的酸素要求量分布（海域含む）

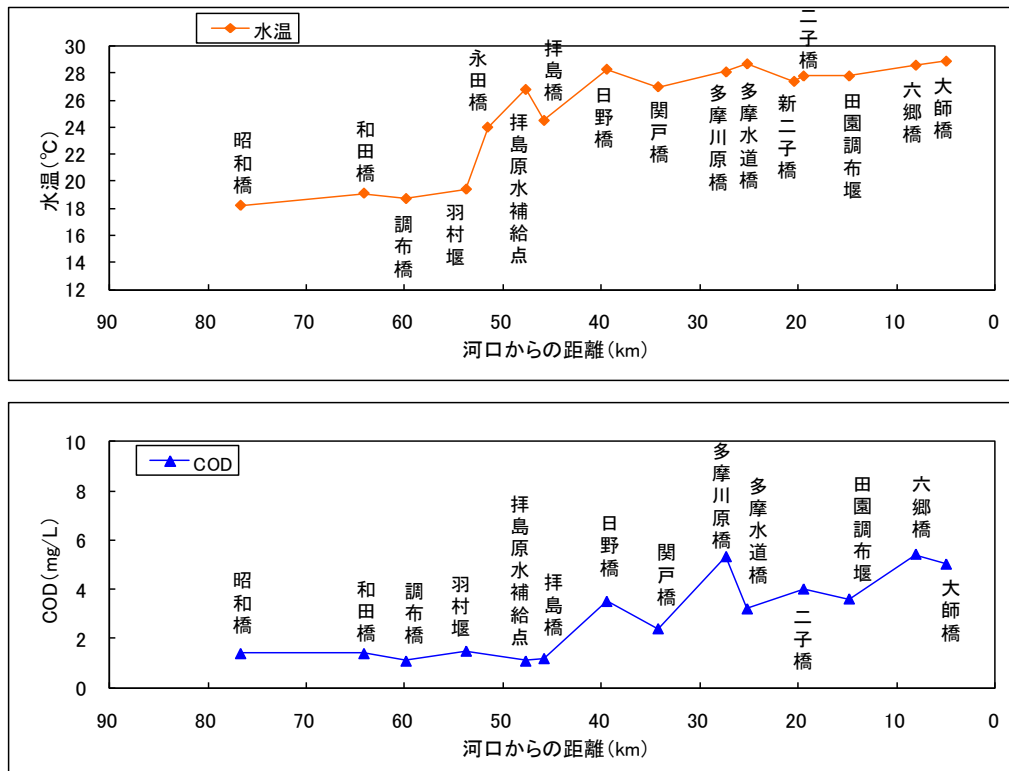
9. 東京湾に流入する主な河川の状況

河川環境調査の結果から、多摩川、荒川、江戸川、養老川、小櫃川、小糸川の本流の調査結果を抽出しました。

各河川の流量、水温、化学的酸素要求量（COD）の状況は、以下のとおりでした。なお調査結果には、一斉調査日（平成22年8月4日）以外の調査日の調査結果も含まれています。

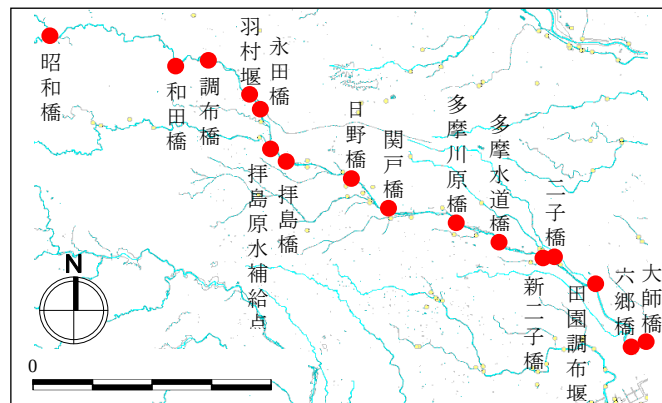
（1）多摩川

昭和橋、和田橋、羽村堰、拝島原水補給点の調査日は8月3日、その他の地点の調査日は8月4日です。



注) 永田橋、新二子橋ではCODを観測していません。

地点名	流量(m3/s)
和田橋	18.00
調布橋	14.65
永田橋	3.53
拝島橋	5.37
日野橋	9.81
関戸橋	12.12
多摩川原橋	16.31
多摩水道橋	11.69
新二子橋	11.98
二子橋	13.72
田園調布堰	14.68



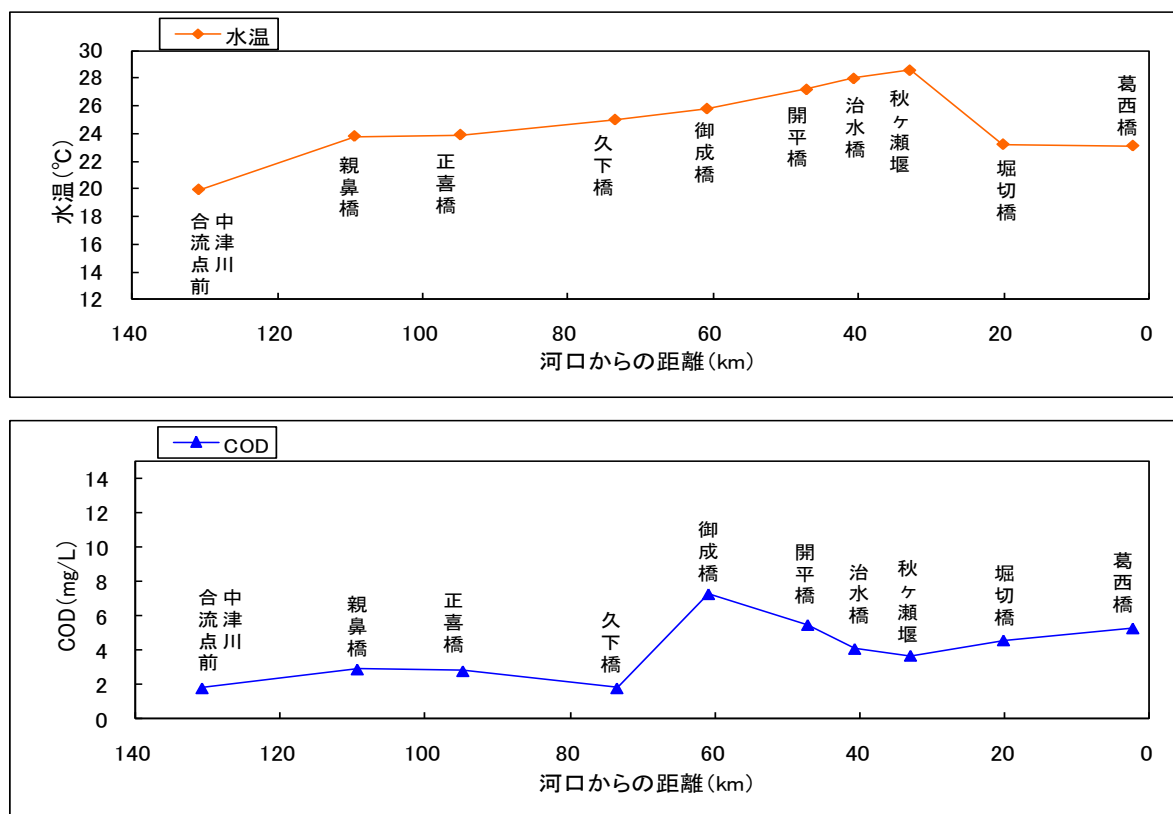
調査地点図

注) 流量観測を行った地点のみ表示

水温、化学的酸素要求量ともに、下流に向かって上昇する傾向が見られます。流量は、表記の状況でした。

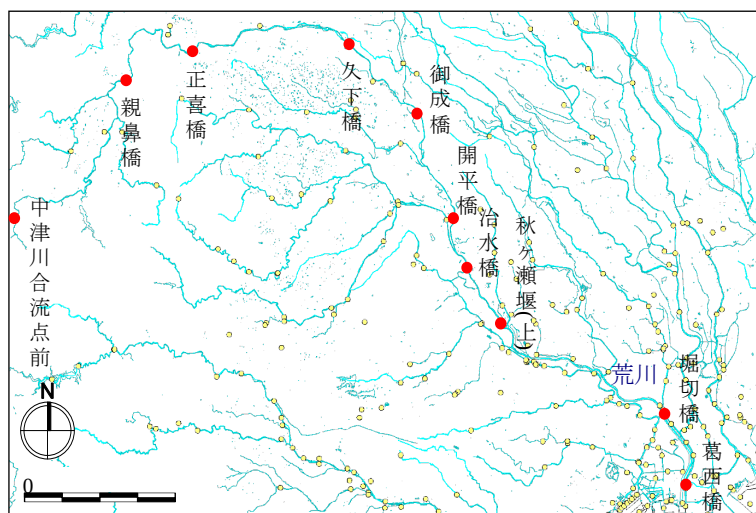
(2) 荒川

中津川合流点前、親鼻橋の調査日は8月3日、その他の地点の調査日は8月4日です。



地点名	流量(m ³ /s)
中津川合流点前	7.30
親鼻橋	40.30
正喜橋	25.53
久下橋	21.17
御成橋	58.19
開平橋	60.13
治水橋	66.21
秋ヶ瀬堰(上)	54.15

注) 流量観測を行った
地点のみ表示



調査地点図

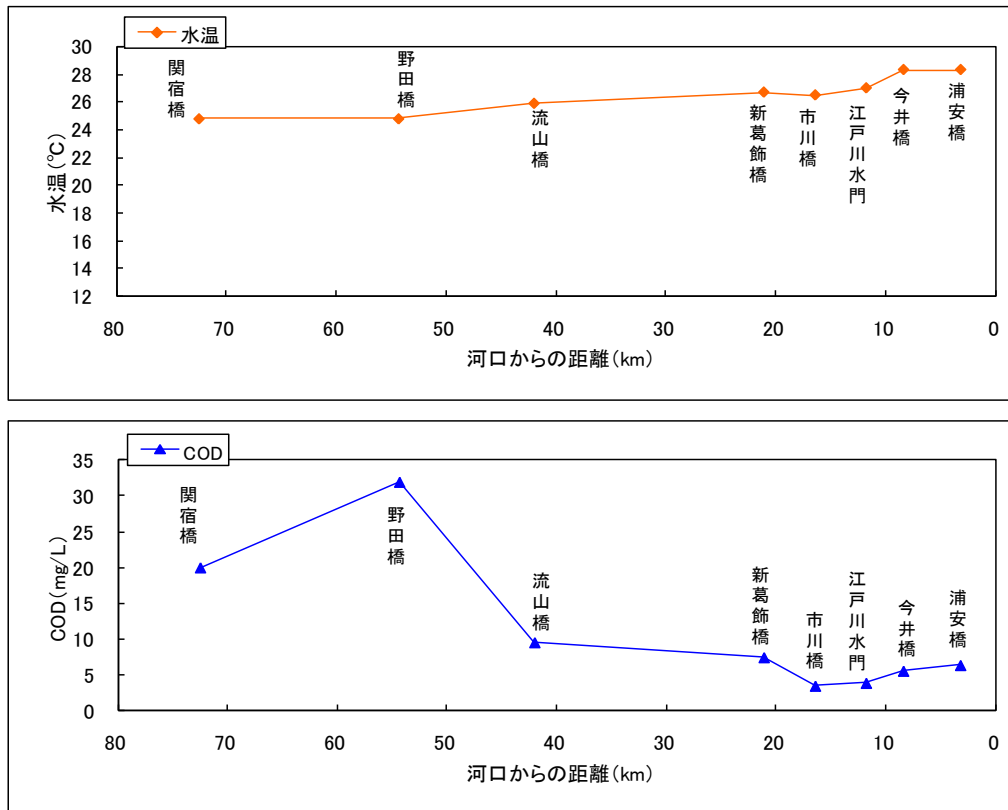
水温は、秋ヶ瀬堰までは下流に向かって上昇し、堀切橋では下がっていました。秋ヶ瀬堰より上流の調査時刻は昼間であり、堀切橋と葛西橋の調査時刻は夜明け前だったことが、要因の一つと思われます。

化学的酸素要求量は、久下橋と御成橋の間で変化が見られました。

流量は、表記の状況でした。

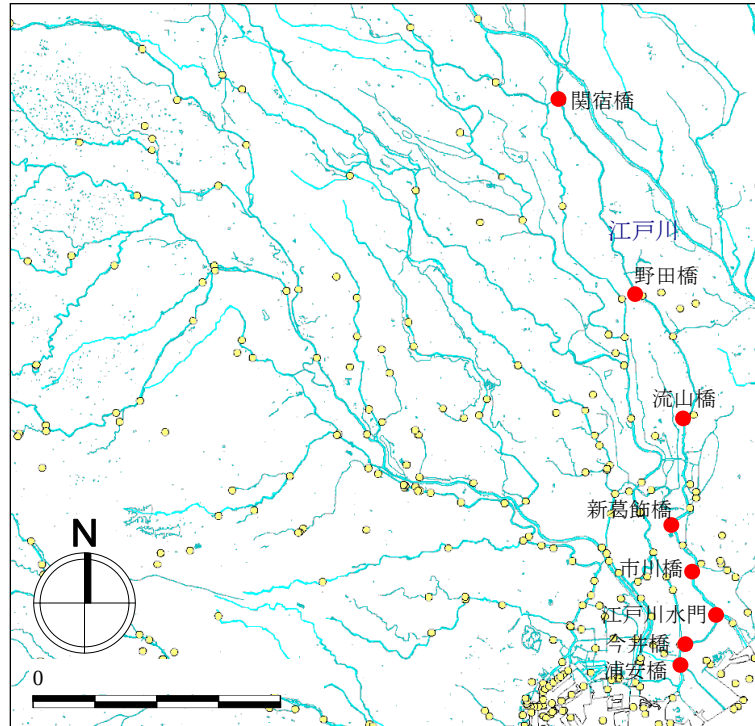
(3) 江戸川

今井橋、浦安橋の調査日は8月12日、その他の地点の調査日は8月4日です。



地点名	流量(m ³ /s)
関宿橋	202.17
野田橋	192.13
流山橋	197.26
新葛飾橋	157.84

注) 流量観測を行った
地点のみ表示

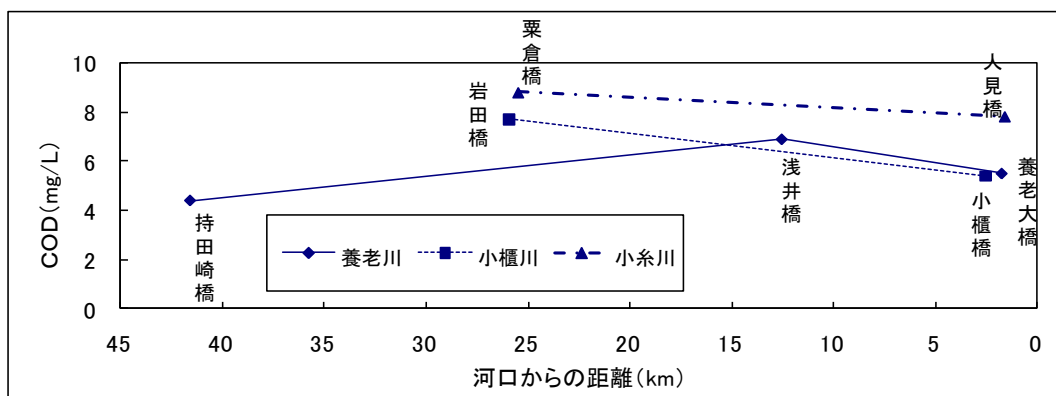
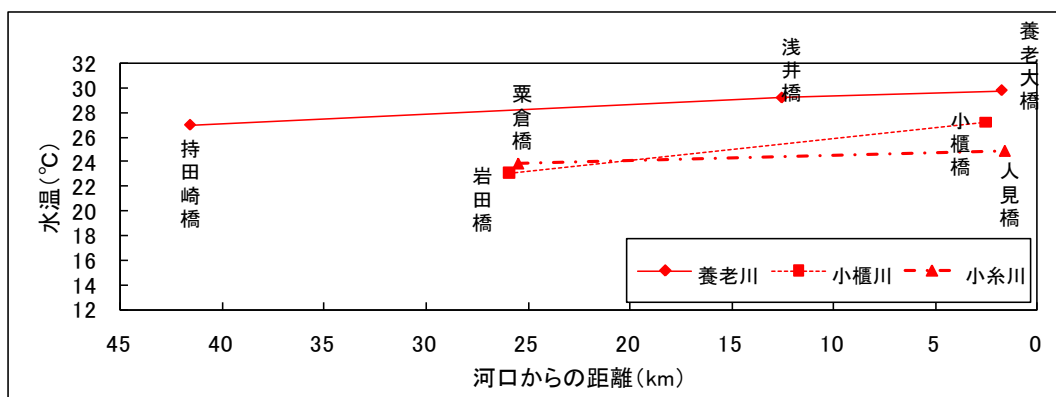


調査地点図

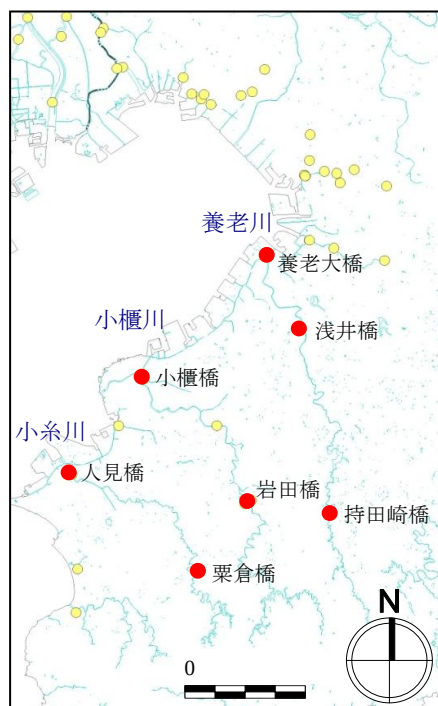
水温は、上流から下流まで大きな差は見られません。
化学的酸素要求量は、野田橋より上流と、流山橋より下流とで差が見られました。
流量は、表記の状況でした。

(4) 養老川、小櫃川、小糸川

養老川の調査日は8月12日、小櫃川及び小糸川の調査日は8月9日です。



河川名	地点名	流量(m3/s)
養老川	持田崎橋	1.04
養老川	浅井橋	2.02
養老川	養老大橋	16.60
小櫃川	岩田橋	5.52
小櫃川	小櫃橋	13.64
小糸川	栗倉橋	1.31
小糸川	人見橋	9.83



調査地点図

水温、化学的酸素要求量ともに、上流から下流まで大きな差は見られません。流量は、表記の状況でした。

10. 環境教育等の開催実績

表3のとおり、21の環境教育等のイベントが開催されました。

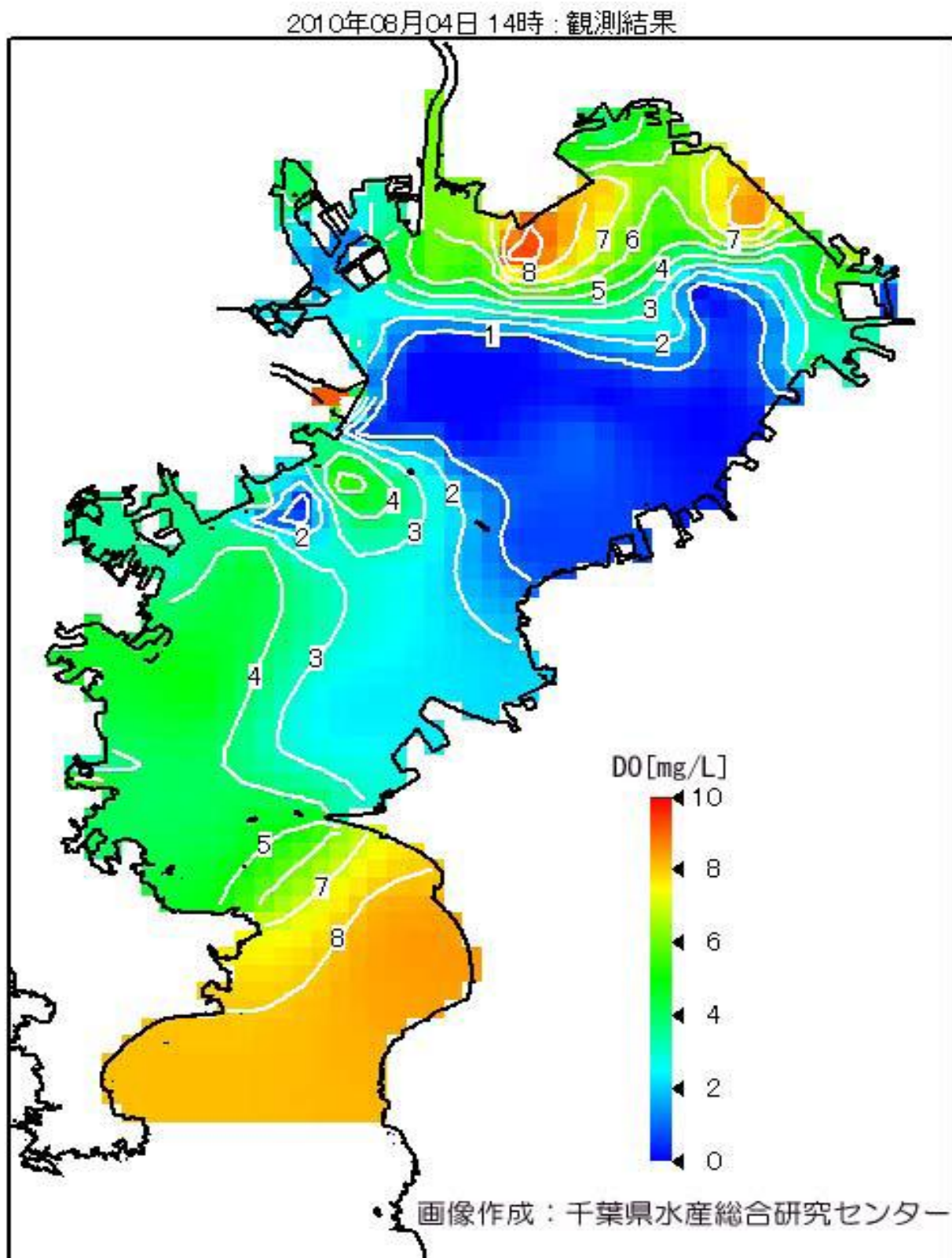
機関名	実施日	内 容
サントリー酒類(株)	7/7	○ライトダウンキャンペーン（セタライトダウン）
	7/20～7/22、 7/26～7/30、 8/2～8/20 （平日実施）	○夏休み親子見学会～ビール工場で環境を学ぶ～
埼玉県	7/19、 8/6、18、21	○川ガキ養成埼玉塾
千葉市	7/23～7/25	○下水道教室
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所	7/24	○東京都環境科学研究所施設公開
特定非営利活動法人 「木更津イルカ計画」	7/24	○木更津水棲生物観察会
海上保安庁	7/24、25	○船の科学館における海上保安庁所属測量船「明洋」の一般公開にあわせ、海洋と海洋環境の教室を実施
千葉県	7/27、8/5、6	○水質調査船「きよすみ」による東京湾視察
	8/21	○環境研究センター公開講座「親子リサイクル工作教室（小学生と保護者）」
(財)埼玉県下水道公社	①7/27、28 ②7/22、27、28 ③7/28、29 ④7/28、29	○夏休み親子下水道教室 ①新河岸川水循環センター ②中川水循環センター ③荒川水循環センター ④元荒川水循環センター
さいたま市	7/28	○夏休み生き物（昆虫）観察会・環境学習
特定非営利活動法人 未来に残そう青い海	7/29	○環境学習会
(財)横浜市臨海環境保全 事業団	8/1	○海の環境を考える親子講座
横浜市	7/25	○「よこはま・未来・うみ」フォーラム
	8/3	○親子の下水道理科実験教室
	8/23～8/27	○夏休み親子の下水道教室
東京都	8/6	○虹の下水道館夏祭り
認定特定非営利活動法人 ふるさと東京を考える実 行委員会	8/7、8、21、22	○葛西海浜公園西なぎさ 里海づくり 体験イベント 里海まつりー砂遊び・水遊び・船遊びーむかしの海辺 遊びを体験しよう
特定非営利活動法人 横浜シーフレンズ	8/8、15	○帆船日本丸シーカヤック夏休み子供体験教室
横浜ベイサイドマリーナ (株)	8/10、11	○YBM海の学校
さいたま市水環境ネット ワーク	8/27	○視察観察会

表3 環境教育等の開催実績

1 1. 調査結果速報図

東京湾水質一斉調査の広報活動の一つとして、一斉調査日の調査データの一部を使用して底層溶存酸素量の分布図を作成し、8月4日午後4時過ぎに海上保安庁のホームページに掲載しました。

分布図の作成には、千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所の協力をいただきました。



1 2. 調査実施状況写真

各調査参加機関の調査実施状況は、以下のとおりです。

さいたま市（南部浄化センター）



さいたま市



加茂川橋



加茂川橋(検体)



加茂川橋(採水)



境橋



境橋(検体)



境橋(採水)



市立浦和高校脇



市立浦和高校脇(検体)



市立浦和高校脇(採水)



中土手橋



中土手橋(検体)



中土手橋(採水)



啜橋



啜橋(検体)



啜橋(採水)



八丁橋



八丁橋(検体)



八丁橋(採水)



柳橋



柳橋(検体)



柳橋(採水)

(株) ロッテ浦和工場



川口薬品 (株) 浦和工場



(財) 埼玉県下水道公社 (環境教育)



狭山市



入間川 豊水橋(採水) 入間川 富士見橋(採水) 不老川 入曽橋(採水)

埼玉県 (川ガキ養成埼玉塾)



埼玉県（調査）



中川 行幸橋



中川 行幸橋



中川 行幸橋



中川 行幸橋



中川 道橋



忍川 前屋敷橋

川越市



新河岸川 旭橋



新河岸川 旭橋



入間川 初雁橋



入間川 初雁橋



不老川 不老橋

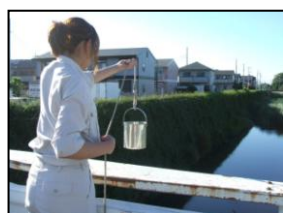


不老川 不老橋

草加市



伝右川 伝右橋



伝右川 伝右橋



古綾瀬川 綾瀬川合流点前

越谷市



新方川 昭和橋

所沢市



東川 中橋



東川 中橋



東川 中橋



柳瀬川 二柳橋



柳瀬川 二柳橋
川口市



新芝川 山王橋
キッコーマン食品(株)野田工場製造第1部



新芝川 山王橋



藤右衛門川 論處橋



キッコーマン食品(株)野田工場製造第3部



流山キッコーマン(株)



習志野市



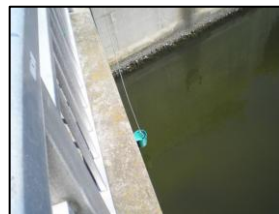
茜浜地先



干潟出口1



干潟出口2



高瀬川入口



七中脇



谷津干潟



谷津船溜出口

習和産業(株)



高津川



日立産機 排出口



花見川 1



花見川 2

住友化学(株) 千葉工場(袖ヶ浦地区)

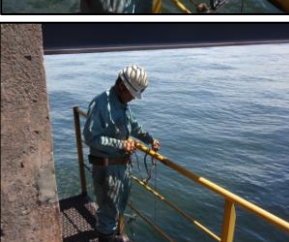
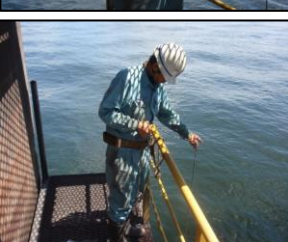


Oバース水質測定

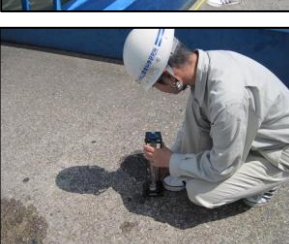
新日本製鐵(株) 技術開発本部



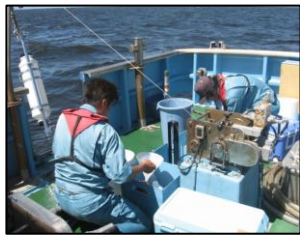
新日本製鐵(株) 君津製鐵所



松戸市



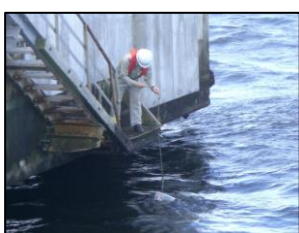
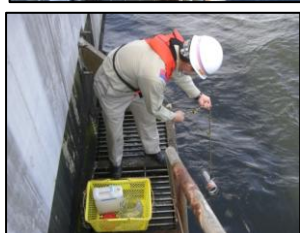
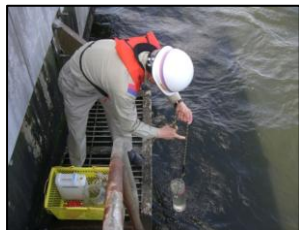
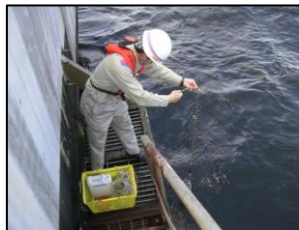
千葉県



千葉市



東京ガス(株)袖ヶ浦工場



日産自動車(株)追浜工場



川崎市



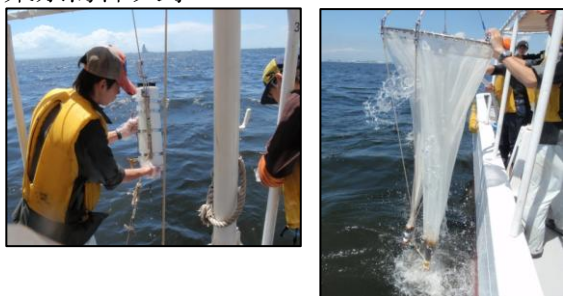
東京都



(財) 東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所



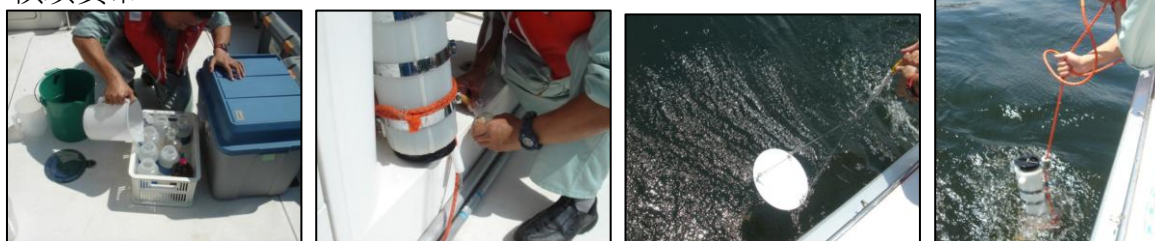
東京海洋大学



千葉県水産総合研究センター



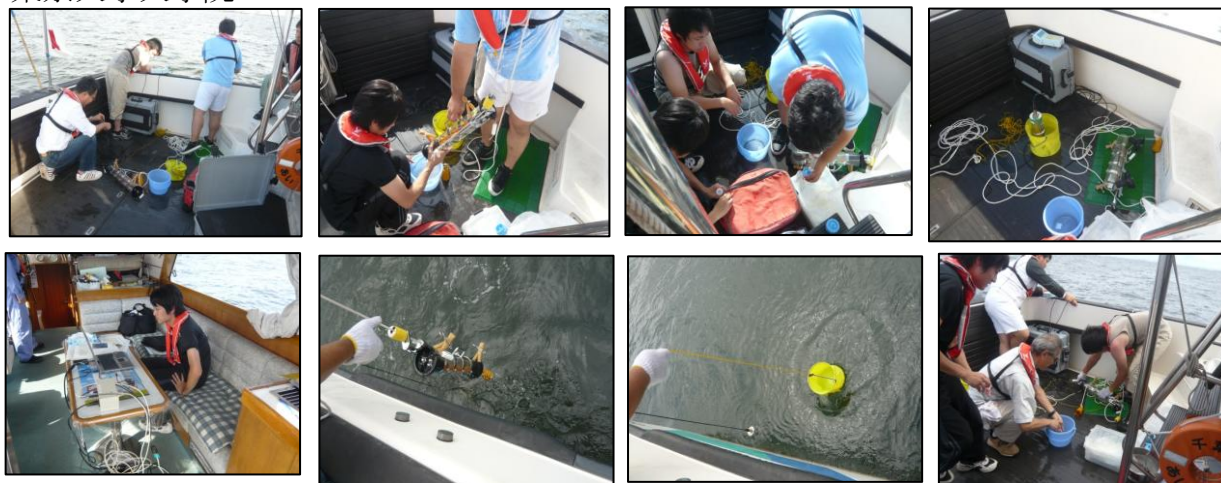
横須賀市



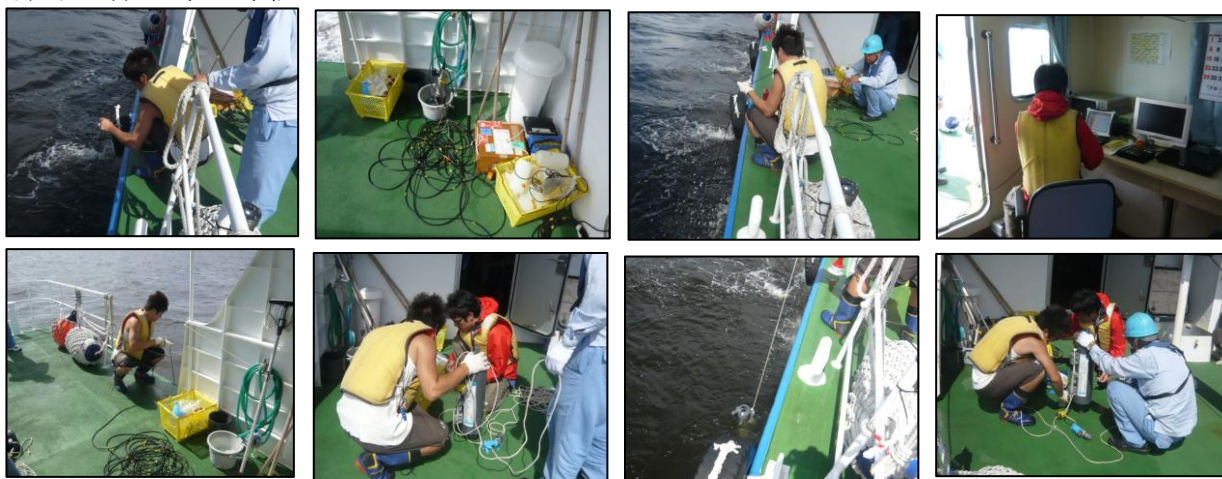
東邦大学



東京大学大学院



東京工業大学大学院



(独)水産総合研究センター中央水産研究所



柴漁港入口(観測)

八景島北側(観測)

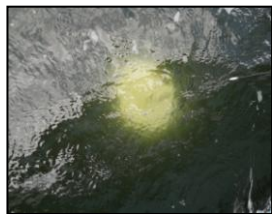
八景島南側(移動中)

八景島南西側(採水)

神奈川県



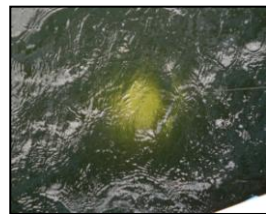
中ノ瀬北(採水位置)



中ノ瀬北(色相確認)



中ノ瀬南(採水位置)



中ノ瀬南(色相確認)



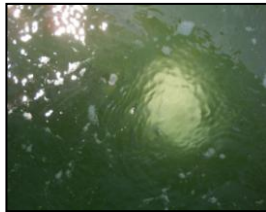
第三海堡東(採水位置)



第三海堡東(色相確認)



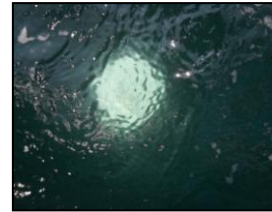
浦賀沖(採水位置)



浦賀沖(色相確認)



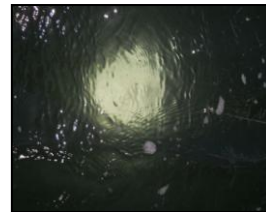
劔崎沖(採水位置)



劔崎沖(色相確認)



金田湾(採水位置)



金田湾(色相確認)

横浜市



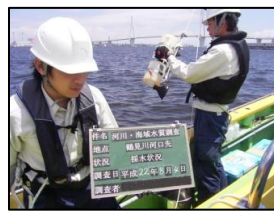
磯子沖(採水)



横浜港内(採水)



採水機器



鶴見川河口先(採水)



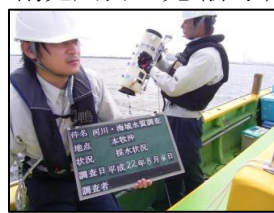
富岡沖(採水)



平潟湾沖(採水)



平潟湾内(採水)



本牧沖(採水)

横浜市 (環境教育)



(株)地盤試験所



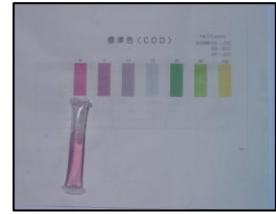
隅田川 両国橋(採水)



隅田川 両国橋(COD測定)



隅田川 桜橋(採水)



隅田川 桜橋(COD測定)



高麗川
天神橋(採水位置)



高麗川
天神橋(川幅測定)



高麗川
天神橋(流速測定)



高麗川
白子橋(採水位置)



高麗川
白子橋(採水位置)



高麗川
白子橋(COD測定)



高麗川
東橋(採水位置)



高麗川 東橋(採水)



高麗川 東橋(COD測定)



高麗川支流



高麗川支流(採水)



高麗川支流(COD測定)



高麗川源流



高麗川源流(採水)



高麗川源流(COD測定)



横瀬川(採水)



横瀬川(COD測定)



荒川 親鼻橋(採水位置)



荒川 親鼻橋(COD測定)

NPO Earth Blue



1 3. 問い合わせ先等

(1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾水質一斉調査についてのお問い合わせ、ご意見は、下記までお願いします。

東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局

海上保安庁海洋環境保全推進室

03-3541-3814（内線596）

環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室

03-3581-3351（内線6664）

調査データ集約担当

国土交通省関東地方整備局港湾空港部沿岸域管理官付

045-211-7404

九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会

平成22年事務局 東京都環境局自然環境部水環境課

03-5388-3459

東京湾岸自治体環境保全会議

平成22年度事務局 千葉県環境生活部水質保全課

043-223-3816

(2) 調査結果速報図作成協力

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所

(3) 情報掲載先

東京湾水質一斉調査に関する過去の資料は、海上保安庁ホームページに掲載しています。

http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm

東京湾水質一斉調査の観測データは、下記サイトより入手することができます。

東京湾環境情報センター

（国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所）

<http://www.tbeic.go.jp/>

日本海洋データセンター（海上保安庁海洋情報部海洋情報課）

http://www.jodc.go.jp/index_j.html

東京湾水質一斉調査参加者の有志が中心となりワークショップを開催し、その成果として「東京湾環境マップ」を作成しました。「東京湾環境マップ」は、下記サイトより入手することができます。

港湾環境情報（国土交通省国土技術政策総合研究所）

<http://www.meic.go.jp/>

（メニュー「東京湾マップ」の中に、「東京湾環境マップ5」と題して掲載）